

資  
料  
編



# 年度別一般会計決算額

歳入

(単位：千円)

科目	年度	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
町	税	62,075	72,481	98,144	116,028	140,534	171,094	209,466	244,529	257,929	288,541
地方譲与税		7,056	8,183	14,144	16,262	17,126	24,640	25,586	25,771	26,559	29,757
自動車取得税交付金		5,757	7,423	7,927	9,218	11,227	14,015	11,211	11,394	11,687	12,507
地方交付税		342,782	370,983	398,436	446,479	524,032	574,019	631,491	706,317	800,672	838,214
交通安全対策特別交付金		—	347	314	370	401	552	502	—	—	—
分担金及び負担金		7,962	5,990	6,498	5,805	9,053	10,414	17,005	23,901	14,893	15,986
使用料及び手数料		6,234	6,169	8,271	9,169	12,322	13,404	15,600	13,863	14,931	16,885
国庫支出金		40,461	46,741	76,391	103,022	117,809	100,578	115,903	238,062	173,468	200,687
県支出入金		29,322	25,410	49,208	62,561	67,334	132,097	107,494	170,315	142,335	164,864
財産収入		2,551	3,502	6,714	9,657	9,767	140,371	18,920	33,066	169,422	149,785
寄附金		2,570	1,302	5,800	800	5,000	3,500	—	1,800	—	352
繰入金		—	—	—	—	—	—	—	161,228	114,135	25,346
繰越金		22,383	35,493	21,964	32,796	23,677	22,401	39,412	27,754	32,576	29,316
諸収入		6,856	10,078	8,836	7,416	6,518	8,798	10,487	10,903	9,674	15,518
町債		23,200	45,700	98,700	170,200	175,900	301,000	425,700	390,500	160,600	207,800
歳入合計		559,209	639,820	801,347	989,783	1,120,705	1,516,883	1,628,777	2,059,403	1,928,880	1,995,204

※昭和59年度版「町勢要覧」による

年度別一般会計決算額  
歳出

科目	年度		49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
議 会	費		20,737	28,032	31,370	34,706	40,081	42,987	48,300	50,055	53,053	53,435
總 務	費		121,011	186,438	171,890	196,681	203,258	206,103	319,594	299,890	299,890	340,736
民 生	費		52,980	63,383	87,638	103,612	121,449	296,412	177,382	185,581	185,581	131,818
衛 生	費		14,309	14,950	28,400	23,931	36,788	43,594	44,645	49,417	49,417	86,023
勞 働	費		17,300	19,928	21,597	25,990	28,148	25,445	22,242	27,145	27,145	20,983
農 林 商 工 業	費		75,470	75,941	79,165	121,536	149,159	163,521	207,017	307,232	307,232	252,459
土 木	費		80,115	87,875	136,901	161,526	180,473	386,241	94,098	173,913	173,913	196,535
消 防	費		10,650	10,672	12,005	14,223	21,828	16,567	19,256	22,728	22,728	62,770
教 育	費		105,074	102,322	125,197	201,546	258,446	205,676	523,495	750,101	750,101	445,165
災 害 復 旧	費		4,456	2,687	45,052	43,659	4,902	22,203	43,340	25,298	25,298	57,575
公 債	費		21,614	25,628	29,336	38,697	53,770	68,721	101,655	135,467	135,467	319,391
子 備	費		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
歳 出 合 計			523,716	617,856	768,551	966,107	1,099,302	1,477,470	1,601,024	2,026,827	2,026,827	1,966,894

桜島噴火現況を知らせる手紙 (国分太郎氏蔵)

東京府豊多摩郡西大久保  
百九番地

國分友輔殿

平信

鹿兒島市上之園町二六

封 國分才次

二月十一日

古里 湯野 持木 野尻と武 藤野 西道 松浦  
二侯 高免ハ異状ナシ

復啓御清康慶賀ニ存上候 陳ハ去月十二日来当地変災  
ニ就て十五日付にて早々御見舞を受け居ながら存外長く  
御礼とても申上越さず欠礼今更何とも申訳無之、実ハ拙  
宅にも年内十二月二十六日より悪症の風邪におかされ元  
且も病の床に打臥しながら超歳を重ね心面白からず家内  
の勧めに依り西田町に開業の川島医師ノ診断を受け切角  
と加養中十日午前四時頃より微震を感じ翌十一日に至る  
に従ひ益々度数加ハリ例ノ霧島でも一時的ノ爆発を見ん  
事と左程心にも掛けず又側候所ノ警報として新聞にも震  
源地ハ北方五里外所へするに不及と掲げられ居候為め尚

更平氣て十一日もすき翌十二日午前三時頃より微震なが  
ら尚震度数も増した勢力も加ハリ萬一を思ひ子供扶へ  
も注意を促しそれより自分は一睡も遂げず十二日の朝に  
なり床に臥しながらかゆ共すすり安静に病を養ひ居候ひ  
しが庭先を掃除しているひろが云ふに桜島が大変に煙が  
出ますから今一時なりとも御覧なされと頻りに勧めるか  
ら病体をも顧みず庭先に出て見しに古綿の如き噴煙渦巻  
き横山の上半腹ノ處より噴火し目通り幅五尺程なる焰數  
百丈立ち昇り噴煙ノ中には電光四散したまた西瓜大なる黒  
きもの雨の降る如く昇たり降たり鹿兒島より見て西瓜大  
程に見受ける位なればどふせ小サクトモ疊二枚敷き程石  
と思へば驚かざるヲ得ヌ彼れ是れする内に島の東面黒神  
ノ上ならんとおもふ方面より同様なる黒煙噴き上り続ひ  
て南面有村辺の上何ずれも山の半腹より噴火し大雷を半  
里程隔てて開く様ナ鳴動を起し従つて震動も絶え間無く  
激甚と成り来り是れハ一大事変と思ひ第一ひろ友晴の親  
子外二人ノ妹共の始末など考え母婦ちは前十一日よりひ  
ろの里方なる吉野牧氏へ参り一泊ノ為め未ダ帰り居らず  
独り思案を為し居りしに目下七高造土館に在学中なるお  
清の長男有村貞彦なる者駆け来り此度の災変は当鹿兒島  
市も危険の渦中内候故へ寸時も早く避難せよとて自分ノ  
袖まで捕らへて勧め呉れ候も婦ちは帰らず又自分力避難

致す場合となれば系図や其他必要書類も有之訳故吾れ吾れ二人は跡より来るから此四人の子供丈保護を頼むとて貞彦へ托し川内方面へと彼等を見送りしが丁度前十一時すぎなりき思ひもよらぬ都合にて彼れ等を避けしめし跡ハ自分も安心致し最早半文銭程も価値なき六十八歳ノ穀潰し此上ハ如何様共定期任せと覚悟ノ臍を堅め泰然端座して噴火激烈ノ有様ヲ眺め噴口より吐き上る紅蓮ノ焰を見てハ釈尊ノ教説二人界火宅ノ如しとの伝言も此度初めて身上ニ迫りて活字問となり仏説ノ虚ならざる事も悟道せられ候是より先き十二日午前十時前爆発するや市民大に騒ぎ立老若男女右往左住東奔西走とも言ふべき有様にて主に川内方面へと避難する者多く為めニ武停車場ハたちまち幾百千人ノ人の山と成り十五分間毎に発する臨時列車も間に合ざる大混雑にて何とも筆舌に尽し難く市民一般ノ浮説ニ海嘯起り全市海と成るとの流言さへ伝えられ尚更人心恟々取るものも取り敢へず避難者時々刻々増加し停車場ノ雑沓云ハン方なく彼れ是れする内十二時近かくも相成り候時分婦ちも吉野より帰り子供はと尋ねるから彼れ等は斯く斯くの次第で貞彦へ頼み川内の方へ避けしめし始末共答へ直ちニ廣馬場なる税所氏へ見舞いに〇〇〇午後二至り益々危険ノ兆なれば必ず自分宅迄で避けて居られる方が得策ならん萬一浮説の通り海嘯でも

起り候節ニハ近最寄なる武停車場より何方でも西目筋へ避難ノ便有る訳申入れ又平田伯母様も一月九日よりお〇〇にて御老衰の事とて十二日頃ハ殆ンド危篤ニ御〇〇〇税所氏へ申入ノ通り婦ちをして孝次郎迄含め置き婦ちは帰宅して若しや税所氏や平田氏やらお出ニ成れば余り見苦しとて取片付杯致居候ひしが午后六時半頃と思ふ比俄然大地震襲来家屋も己に倒壊せん強震ノ為め自分もこそ起きに床を離れ庭に飛出で止む間を待ち内に入り出火を起さん様にと火の有る限りを消し斯様なる大地震が何度も襲ふものとすれば今夜家屋住ひは危険なりと考え庭先き便宜好き所をゑらび雨戸や畳を敷き税所氏や平田杯の事を婦ちと噂致居候ひしに間もなく税所氏家族下女迄残らず来られ互ニ無事を祝し合ひ之れにつづいて川西一家皆々打揃ひ来宅唯氣ニかかるは平田氏のこと成り安否如何と咄して居る處に前大地震ありて後ハ鳴震動も倍々激烈ト成り轟たる音響の中ニ電光閃き実ニ前代未聞ノ凄愴且ツ壯觀を極め夜と成りてハ全山火の山と言ふ有様に筆舌に尽し難く夜十時頃とおもふ比爆発未聞ざるたへとて言ハバ数百門ノ大砲を連発する如き音響の中に一入激烈なる事今時咄ニ聞く十四吋砲弾ノ頭上に破裂するも斯く程は有るまいと聞取られ膽をつぶし申候此音響の為め孝次郎も危険を感じ荒田本宅を出て伯母様を介抱して

家族残らず引纏め自分宅へ来り是れで親戚三家族申合せ候様に打集り翌十三日午後四時武停車場より旧市来湊町へ避難し三方所に分宿自分等ハ税所氏と同宿致し避難先ニ於ても津波や海嘯ノ取沙汰甚たしきハ鹿児島も終には陥落するとか種々なる巷説専ら伝へられ候も自分等ハ兎二角有名なる地震学の泰斗なる大森博士の来着を一日千秋ノ思ひにて待居り同博士調査意見を信賴するより外無之ものに諦め居候處同博士も十五日昼頃着覽せられし趣き聞えどんな断案をせらるるものか頻に待居候ひしに翌日の午后四時頃同博士の意見として鹿児島市ハ危険なしとの声明が警察署門前ニ掲示され稍々安堵致し十六日夜ノ終列車より平田・税所家族と共に帰宅致候強震ハ十二日午后六時半すぎ一回而已にて幸に家屋も倒潰不致一同無事暮居候十二日爆発当日より十四日迄ハ無風好天気ノ為め噴煙も直立二天ニ沖シ学理上ノ調査では島ノ頂上より上二万三千ヒート迄昇り候由に候島ノ東面黒神鍋山よりは有村脇間ノ上半腹より噴火ノ為め牛根村ハ残り無く降石降灰ノ為め全村全滅ノ姿ニ候又有村温泉場杯ハ溶岩ノ為め数十丈ノ丘阜ヲ築き同所より黒神迄凡二十町程ナル海岸一帯も溶岩流出し為めに瀬戸海峡ハ終に閉塞せられ小舟とても通航出来ヌ又西面鹿児島ト対岸なる横山ノ上なる中腹より爆発噴火口よりハ南方赤水の洗出ノ方へ

と溶岩流出し高サ三四丈程にて舌端ハ海中神瀬近く迄突出又一方ハ同噴火口より袴越ノ少し南方ニ添ふて鳥島ノ方へト湾形を築き鳥島如きハ溶岩ノ下敷ト成り影ノ形モ無之其端ハ海中鹿児島ノ方へ旧鳥島ヨリ凡十町程突出し今も海中白湯氣立ち昇り奇觀を極め居候惨害ノ状況ハ新聞にて篤ク御承知ノ事と存じ候へば御咄不致尤も前述ハ粗々爆発當時ノ有様にて今日に至てハ大ニ時機後きに及び候十五日付御来書早々御報不致今頃ニ相成り候ひしも存外長がき病直らず思ひながら筆も執り兼ね無申訳欠札に失し候段悪しからず御推了を乞ふ実ハ自分も日ニ増し快方に向ひ居候もいまだ病床中にて日々少しツツ四日ニ掛けて是れ丈認め候重ね当月三日付にて御見舞被下御深情難有御礼申上候貴下にも近頃不健康にて御困りの由余寒氣候不順の折折角大事に加療早日御全快を祈入候婦ちよりも始終ノ御無沙汰をよろしく相お詫び致す様申居候内君へも宣敷御傳へ置を頼む乍延遠御礼旁々草々可祝

二月十一日

① 発信人国分才次は本手紙所持者国分太郎の祖父に当たる

人 受信人の国分友輔は才次の甥に当たたる人で子どもがな  
く、太郎の父竜三が最も縁故の深い間柄であったので、こ  
の手紙を貰い受け保管していたものである。(昭和五十

九年七月二十三日、国分太郎談

### 大正三年の桜島大爆発 石谷、飯牟礼ノキ(七五)

大正三年一月十二日、当時私は直木小中原に住み、東昌小一年生でした。ちょうど朝の修身の時間に、校門の石垣積みをしていた中馬おじさんが、突然大声で「桜島が噴火したドオー」と叫ばれました。この声に驚いた奥先生は、窓から顔を出し急に「本をしまつて、今桜島が噴火したので、見に連れていく」と言われたので、私たちは急いで外へ出ました。

六年生を先頭に、入佐のお伊勢どんの丘までハアハア息を切らしながら、やつと着きました。すぐ桜島を見ると、黒煙がモクモクと物凄い勢で噴き出し、その煙の塊が今にもこつちに倒れて来そうな恐ろしさです。そのため授業も打ち切られて、みんな帰宅しました。

その日の夕方、物凄く大きな地震が二回もあり、いろいろで背中あぶりをしていた祖母を起き上がらせるのに、母は一生懸命で、天井からぶら下がっているランプは、大きく左右に揺れていました。いろいろの中には、餅がたくさん焼いてありましたが、だれ一人手を出す者もなく、ただただこわくて震えていました。

翌朝登校すると、校庭には瓦が落ちて割れ、その上に

灰が積もり、大きな岩が割れて大人の足が入るぐらいでした。その後桜島から避難して来た生徒が数人いました。その人たちのため、食糧を提供することになり、小組合長の父はあちこち走り回っていました。その間にも「津波が来るぞ」などと、いろんなデマが飛びましたが、みんな少しずつ落ちついてきました。しかし、東風に乗ってくる灰で、野菜など被害を受けましたが、困ったのは、その年は稲がほとんどみならず、石油臭いタイ米を食べたり、冬になると、山にカンネンカブラの根を掘りに行き、洗って臼でつぶし、水につけてさらし、クズ粉にし、それをお湯で練って腹を満たしたりしました。今でもあの時の恐ろしさは忘れません。(爆発当時は直木小中原に居住)

### 住んでいた桜島が爆発 仁田尾、藤崎末盛(七三)

大正三年一月十二日午前十時、突然ひどい地震が起こり、桜島が大爆発をした。ジツとして居られず、皆が家から飛び出して、前の蜜柑畑に避難した。この横山では大人たちは畳を運び出して畑に敷き、その上に腰をおろして休んだ。父が突然「オイ、あれを見い」と私を起こしたので頭を上げると、山の頂上から真っ赤な火柱が昇つて、大きな赤い塊を噴き上げている。私は恐ろしさ

に父にしがみついた。地鳴りと地震はますます激しくなるので、とても心配で震えながら一夜を明かした。

翌朝は、はだしでは歩けない程地面は熱い。父は桜島の漁業の網元で漁船を五隻持っていたので、夜が明けると、それに自宅や近所の人々の応急の家財道具を積み込んで、袴腰から鹿兒島の方向に船を進め、やつと築港浜に着き上陸した。そして大急ぎで皆家財道具を背負い、それぞれの目的地に向かって別れた。

私たちは父に連れられて、千石馬場から西田町を通り、水上坂を登り、大曲りほきから刈敷に出て、上伊集院村の石谷の仁田尾の祖父母の家に向かい、重い足を引かずしながらやつと夕方たどり着いた。祖父母宅にはお産のため先に帰っていた母がいて、私たちが無事着いたのを見て大喜びで「よく生きていたなあ」と嬉し涙を流しながら、私を抱き上げてくれたのを今でも忘れられない。

噴火から十日程して、父が島に帰って見ようと港に着いてみると、あの大事な五隻の船は全部盗まれて影も形もないので、父はがっかりして石の上に座り込んだそうだ。しかし、父の話しを聞いた回りの人々の情けで、横山に帰ってみると、わが家も溶岩の下に埋まってしまひ、水蒸気を吐く真つ黒な塊だけが、果てしもなく続い

ていたという（末盛さんは当時四歳、桜島横山に居住）

### 恐ろしかった噴火

福山、篠原義満（八〇）

上伊集院小の五年生だった私は、二時間目の午前十時ごろ、地球が割れるような大爆音にびっくりして、皆と教室を飛び出した。それは大正三年一月十二日のことだった。高等科二年生は「霧島が爆発したぞ」と叫んで、石谷の前原の丘に向かって走り出したが、やがて帰って来ると、「桜島が噴火したぞ」と叫んで回った。学校では下級生は帰宅させられ、私たち五年生は桜島がよく見える饅頭石の丘に先生に連れられて登った。

午後二時過ぎ、桜島から避難の人々が僅かばかりの荷物を背負って次々にやって来た。それは実に惨たんたる光景であった。午後四時ごろ帰ると、「今よずい、何よしちよつたとよ、心配しちよるのに」と父に大変叱られた。地震はますます激しくなり、「こりや家が倒るつど」と、両親は心配して、前の竹山に畳を敷いて、そこに二晩寝た。近所の人々も皆やって来た。しかし、夜中に雨が降り出したので、家の馬小屋の屋根裏のわらの中に寝たこともあった。夜になって父や兄と一緒に近くの山に登って桜島を眺めると、赤色の噴煙はモクモクと高く噴き上げ、真つ赤な噴石は天にも届くぐらい舞い上がり、

稲光りでもくらむばかりで、その時の恐ろしさは今でもすぐ目に浮かぶ。私たちの地区では、早速桜島からの避難者を収容するため、掘立小屋を作つてあげた。それは十世帯ぐらいたつた。そしておばさんたちは、炊き出しをしたりした。

今桜島観光に出かけて、横山や古里付近の溶岩を見ると、あの時、これが真つ赤になつてゴウゴウと音を立てて落下したことを思うと、桜島の人々はどんなに恐ろしかったかと当時が思われ、二度とあんな大災害がないように祈らずにはおれない。

(当時福山在住)

## 入佐婦人会会則

制定 大正十四年二月二十八日

### 入佐上ノ前婦人会の歩み

#### 一、婦人会の発足

時勢の進運に伴い、小組合にも婦人会の必要を痛感し二、三の志ある婦人の主唱により、区内居住の婦人多数並びに男性有志の同意援助のもとに、大正十四年二月二十八日、森園ハル宅にて発会式を挙げ、会則を協定し役

員の選挙を行い、差し当たり左の実行事項を申し合せた。

(一)、卵貯金をして会員割徴収金とする。  
(二)、諸道具置場を一定するため標札を貼布する。

#### 二、会則

第一条、本会ハ入佐上之前婦人会ト称ス。

第二条、本会ハ入佐上之前部落内ニ本籍ヲ有スル現住婦人(處女会員ヲ除ク)ヲ以テ組織ス。但し、七十歳迄ヲ正会員トシ、七十一歳以上ヲ特別会員トス。

第三条、本会ハ忠孝ノ大義ヲ体シ、身体ノ健全ト婦徳ノ向上ヲ図リ、實際生活ニ必要ナル知能ヲ研キ、以テ家庭ノ改善、産業奨励ノ実ヲ挙げ、兼テ社会奉仕ニ努ムルヲ目的トス。

第四条、本会ノ目的ヲ達成スル為ニ左ノ事項ヲ行フ

一、総会、毎年三月一日開会ス。但し臨時開会

二、役員会、必要ニ応ジ開会ス。

三、講演会、総会ト同時ニ開会ス

但し臨時ニ開会スルコトアルベシ

四、家庭改善研究会又ハ見学視察

毎年一回以上之ヲ行フ

五、講習会、臨時ニ開会ス

六、共同作業

七、社会奉仕

八、児童出席督励

九、敬老会、総会ノ時之ヲ行フ

十、慰安会、総会ノ時又ハ臨時ニ之ヲ行フ

十一、諸品評会、毎年一回以上之ヲ行フ

十二、貯金（基本金造成）

十三、追悼会

十四、貧困者又ハ罹災者救助

十五、善行者表彰

十六、優良指導ノ表彰

十七、風紀ノ改善、言語風俗ノ改良

十八、衛生事項ノ励行

十九、其ノ他

第五条、本会ニ会長一名、副会長一名、幹事若干名ヲ置ク

第六条、会長、副会長、幹事ハ総会ニ於テ選挙シ、其任期

ハ一カ年トス 但シ再選ヲ妨ゲズ

第七条、会長ハ本会ヲ統理シ、会議ノ際ハ之ガ座長トナル

モノトス。

第八条、本会ニ於テ行フ重要事項ニ関シ、諮問スル為ニ顧

問若干名ヲ置ク

第九条、本会ノ目的ヲ遂行シ活動ヲ助成スル為ニ基本金

ヲ左ノ方法ニ據リ造成蓄積ス

一、会員ノ共同作業ヨリ得タル利益金

二、会員ノ拠出金品

三、会員ノ残額

四、寄附金

五、其ノ他

第十条、本会ニ左ノ帳簿ヲ備フ

一、会則

二、役員及会員名簿

三、会議録

四、年中行事表

五、基本金台帳

六、金銭出納簿

七、重要書類綴

八、普通書類綴

九、備品台帳

十、会ノ沿革史

十一、寄附者芳名簿

第十一条、本会則ハ総会ニ於テ出会員三分ノ一以上ノ賛

成ヲ得ザレバ変更スルコトハ得ザルモノトス

松元町出身教員養成学校卒業者名簿

(昭和三十一年三月末現在鶴嶺會員名簿)

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
神野伝蔵	牧元佐太郎	弓削庄次郎	九万内末愛	倉馬正行	中馬吉之丞	浅原初重男	四元吉	小原吉	石原正	松木園	隈元ヒデ	四元六二	若松仁次郎	篠原武熊	新穂彦熊	上野平二	北野栄蔵	川畑吉助	
入佐	入佐	直木	入山	春山	直木	内田	春山	内田	春山	入山	春山	春山	松元	四元	田ノ頭	入佐	四元	入佐	
〃 7 ・ 3	〃 6 ・ 3	〃 6 ・ 3	〃 6 ・ 3	〃 4 ・ 3	〃 4 ・ 3	〃 4 ・ 3	〃 4 ・ 3	〃 3 ・ 3	大 2 ・ 3	〃 45 ・ 3	〃 44 ・ 3	〃 42 ・ 3	〃 42 ・ 3	〃 39 ・ 3	〃 38 ・ 7	〃 37 ・ 12	〃 37 ・ 3	明 31 ・ 3	
一 部	講 習 部	二 部	二 部	講 習 部	講 習 部	一 部	一 部	講 習 部	講 習 部	講 習 部	講 習 部	講 習 部	一 部	簡 易 部	簡 易 部	簡 易 部	本 科 男 子 部	本 科 男 子 部	

39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
石神一男	中馬徹	上増原義男	有馬純義	松木園吉	永山重則	竹之内武雄	内原静雄	小原静雄	倉内睦夫	飯牟礼実教	吉村伊右工門	島中善次郎	鶴田良雄	中西軍玄	石神吉亘	島中長吉	田原春清	浜田武夫	
石谷	四元	春山	入山	入山	入山	内田	春山	石谷	四元	入山	直木	直木	直木	直木	春山	入山	田原春	石谷	
昭 5 ・ 3	〃 4 ・ 3	〃 4 ・ 3	〃 3 ・ 3	〃 3 ・ 3	〃 2 ・ 3	〃 2 ・ 3	昭 2 ・ 3	〃 15 ・ 3	〃 13 ・ 3	〃 12 ・ 3	〃 12 ・ 3	〃 12 ・ 3	〃 12 ・ 3	〃 11 ・ 3	〃 10 ・ 3	〃 10 ・ 3	〃 7 ・ 3	大 7 ・ 3	
一 部	一 部	一 部	実 補 教 部	一 部	一 部	二 部	二 部	一 部	二 部	二 部	一 部	一 部	一 部	一 部	一 部	講 習 部	一 部	一 部	一 部

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40
山	小	満	下	若	盛	馬	中	新	下	原	内 <sub>内</sub>	上	小	小	上	中	鶴	萩	四	奥
下	原	尾	野	松	園	渡	園	福	野	口	野	倉	倉	野	馬	田	原	元		
幸	利	一	哲	尚	幸	義	国	ツ	秀	邦	清	維	初	清	国	シ	ハ	静	武	
郎	隆	夫	二	雄	孝	子	夫	隆	ル	雄	徳	栄	郎	雄	香	ヅ	ネ	枝	雄	
石	内	石	入	松	石	折		直	入	直	福	入	春	入	入	直	直		福	
谷	田	谷	佐	元	谷	尾		木	佐	木	山	佐	山	佐	佐	木	木		山	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
20	20	19	19	19	17	16	16	16	15	15	14	13	8	6	6	6	5	5	5	5
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
青	鹿	鹿	鹿	鹿	男	女	男	男	青	男	男	一	一	一	一	一	女	女	女	一
師					師	師	師	師	教	師	師	師	師	師	師	師	師	師	師	師
臨					一	二	二	二		二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	二
教	師	師	師	師	部	部	部	部	養	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部

81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	
寺	坂	若	坂	四	上	新	神	西	坂	九	森	西	石	益	古	九	下	上	神	岩	
園	之	松	之	元	竹	山	野	村	之	万	園		神	山	川	万	竹	村	野	下	
和	あ	一		徹		政	ミ		哲	辰			シ	成	純	政	幸		良	光	
己	つ	雄	潜	弥	優	昇	子	睿	哉	巳	勉		ヅ	エ	子	市	己	子	勝	則	
入			直	春	内	福	入		直	入	入		石	折	内	入	内		入	福	
佐			木	山	田	山	佐		木	佐	佐		谷	尾	田	佐	田		佐	山	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
31	31	31	30	30	29	29	27	25	25	25	24	24	23	23	23	22	22	22	21	昭	
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	21
3	3	3	3	3	3	3	10	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	青	青	師	青	青	師	師	師	青	師	師	青	青	青	
大	大	大	大	大	大	大	師	師	男	師	師	女	女	女	女	女	男	男	師	師	
教	教	教	教	教	教	教	師	師	子	師	師	子	子	子	子	子	子	子	臨	臨	
初	中	初	初	中	中	初	師	師	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	
二	二	四	四	二	二	二															

全国復員引揚者地域別統計表 (昭36・12・31厚生省発表)

一	中 国	一、五三四、三六二人
二	満 州	一、〇四五、五二七〃
三	台 湾	七四九、五四四〃
四	東 南 ア ジ ア	七一一、五〇六〃
五	南 朝 鮮	五九六、四五四〃
六	ソ 連 朝 鮮	四七二、九三七〃
七	北 朝 鮮	三二二、五八五〃
八	千 島 ・ 樺 太 連	二九三、三五九〃
九	大 連	二二五、九五五〃
一〇	オーストラリア	一三八、八四三〃
一一	比 島	一三三、一二二〃
一二	太 平 洋 諸 島	一三〇、九六七〃
一三	琉 球	六九、四一六〃
一四	本 土 隣 接 諸 島	六二、三八九〃
一五	ハ ワ イ	三二、三〇三〃
一六	仏 領 印 度 支 那	一九、三四七〃
一七	香 港	一五、五九三〃
一八	蘭 領 東 印 度	三、六五九〃
一九	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	七九七〃
累 計		六、二八八、六六五〃

鹿児島県復員引揚者数

軍人 六八、二六七人  
   内陸軍 五八、二七四人  
   海軍 九、九九三人  
   軍属 七、四五一一人  
   内陸 四、九八五人  
   海 二、四六六人  
 一 般 一七〇、一一九人  
   (七八、五八六世帯)  
 累 計 二四五、八三七人





一七六	一七五	一七四	一七三	一七二	一七一	一七〇	一六九	一六八	一六七	一六六	一六五	一六四	一六三	一六二	一六一	一六〇	一五九	一五八	一五七	一五六	一五五	一五四	一五三	一五二	一五一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四	元	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	直
朝隈	東谷	長川	朝隈	篠原	朝隈	大西	吉村	朝隈	吉村	二村	東末	内田	上四	二四	朝隈	徳永	野元	森元	坂上	西馬	中馬	若松	新穂	川野	吉海
鹿郎	アキ	武夫	サヤ	スミ	シヅ	エイ	浅吉	ユカ	フカ	末広	純男	鉄二	シミ	静ネ	甚雄	健次	カズ	徳治	栄吉	秀雄	七イ	哲	野渡	ケイ	
一	三	四	五	一	二	八	五	二	五	四	二	一	七	六	一	一	一	一	一	一	七	五	一	四	
引	戦	〃	〃	引	〃	戦	〃	〃	〃	〃	引	〃	戦	〃	引	〃	〃	〃	〃	戦	引	〃	〃	〃	戦
二〇二	二〇一	二〇〇	一九九	一九八	一九七	一九六	一九五	一九四	一九三	一九二	一九一	一九〇	一八九	一八八	一八七	一八六	一八五	一八四	一八三	一八二	一八一	一八〇	一七九	一七八	一七七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	春	山	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	直
井田	石原	佐藤	山田	野下	米沢	大石	田実	隈元	倉内	上原	善福	西田	内田	内田	上四	篠原	二原	篠原	田口	森元	内田	東田	二村	朝隈	芝原
登	次郎	トシ	一子	一則	義夫	ハツ	重信	徳江	小梅	陸夫	サ実	貞礼	成美	精次	重次	政則	源吉	ムラ	栄郎	純茂	国徳	政徳	親親	満雄	末吉
一	五	二	五	四	二	九	四	一	九	七	四	一	一	二	五	四	五	三	四	三	四	一	四	一	一
〃	〃	〃	引	〃	〃	戦	〃	引	〃	〃	〃	〃	〃	〃	戦	〃	引	〃	〃	戦	引	戦	〃	引	
二二八	二二七	二二六	二二五	二二四	二二三	二二二	二二一	二二〇	二一九	二一八	二一七	二一六	二一五	二一四	二一三	二一二	二一一	二一〇	二〇九	二〇八	二〇七	二〇六	二〇五	二〇四	二〇三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	春
石神	隈元	福永	芝原	野間	長谷	森川	新穂	益徳	永徳	倉内	畠中	石原	石原	石原	田中	四元	四元	横内	河合	久永	芝原	工藤	都掛	久保	小柳
亘	ト	ネ	栄吉	末タ	タ子	芳弘	義秀	松次	誠三	嘉市	末博	トヨ	重雄	一夫	義雄	ミキ	為義	兼正	兼好	幸子	文恵	利道	コト	アイ	
九	一	五	七	二	一	二	三	一	三	一	一	二	七	一	一	三	一	一	一	一	一	三	七	二	五
〃	〃	〃	戦	〃	〃	〃	〃	〃	引	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	引	〃	戦

二五四	二五三	二五二	二五一	二五〇	二四九	二四八	二四七	二四六	二四五	二四四	二四三	二四二	二四一	二四〇	二三九	二三八	二三七	二三六	二三五	二三四	二三三	二三二	二三一	二三〇	二二九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	春山
田実	田実	生駒	窪田	石原	松元	松元	上原	四村	田実	永井	上原	上原	上原	上原	永里	岩崎	窪田	田実	岩崎	加藤	石神	岩崎	松元	佐々木	牧山
正六	栄五	雄五	義三	正三	ア二	六男	末信	政親	政治	貢	操	勘之丞	国治	義照	テイ	時オ	イサ	クミ	秀雄	利夫	貞夫	マウ	コス	繁六	盛行
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	戦
二八〇	二七九	二七八	二七七	二七六	二七五	二七四	二七三	二七二	二七一	二七〇	二六九	二六八	二六七	二六六	二六五	二六四	二六三	二六二	二六一	二六〇	二五九	二五八	二五七	二五六	二五五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	春山
小山	曾本	小山西	芝原	辨官	田中	益渕	新福	上原	益渕	阿部	田実	冲元	別府	島府	鮫重	別府	新福	別府	弓削	小倉	田実	大谷	長谷川	田実	
次郎	虎蔵	トシ子	エミ	正治	利弘	利かほる	正一	裕次郎	誠恒	道夫	怒ル	ツヒ	ルサ	清吉	重吉	ク	治己	光美	秋盛	泰三	利道	伊道	ト	引	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	引
三〇六	三〇五	三〇四	三〇三	三〇二	三〇一	二九九	二九八	二九七	二九六	二九五	二九四	二九三	二九二	二九一	二九〇	二八九	二八八	二八七	二八六	二八五	二八四	二八三	二八二	二八一	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	春山	
和田	坂口	内元	松保	久永	末松	若松	奥永	末元	四宅	三田	吉田	中有	松浦	中野	福山	北川	上村	芝原	坂原	田原	福田	別府	田実	武	
栄蔵	喜之助	貞義	ヒロ子	勝雄	卓一	文男	広憲	キ志	義彦	奈美	ケサ	時彦	ヨシ	豊二	国夫	利彦	邦彦	政雄	泰盛	兼盛	休次郎	七太郎	種治	スマ	
〃	〃	〃	〃	戦	〃	〃	引	〃	〃	〃	戦	〃	引	〃	〃	引	〃	〃	〃	引	〃	引	引	引	





四八八	四八七	四八六	四八五	四八四	四八三	四八二	四八一	四八〇	四七九	四七八	四七七	四七六	四七五	四七四	四七三	四七二	四七一	四七〇	四六九	四六八	四六七	四六六	四六五	四六四	四六三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	石	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	福
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	谷	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	山
養輪公和	竹迫清	有馬重	四元清	大内田友	吉村実	田元米	四元末	有村量	飯牟礼宗	徳永太郎	内末成	松和子	田出橋実	新福清	御領貞	村田道	松本ア	木之下正	木下岩	西村国	外園ノ	内田次	早田雄	大内田進	岩下ヨ
一四	四四	四四	四三	三五	五五	二四	四六	三三	一一	一一	一一	一三	四四	四四	二二	一一	一一	一五	一一	一一	一五	一一	一五	一一	一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	引	戦	〃	引	〃	戦	引	戦	〃	〃	〃	引	〃	戦	〃	引	〃	〃	戦
五四	五三	五二	五一	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	石
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	谷
堀之口	久永	久永	山下	山広	末馬	有馬	堀之口	南	迫	南	宮下	囊輪	四元	久木崎	荒川	堀之口	益元	四松	精木	二木	折田	堀之口	堀之口	柏木	有馬
敬蔵	紋次郎	仁之助	常二	ヒタ	喜次郎	喜次郎	勲	宗吉	清美	フミ	アキ	利行	杉盛	次義	隆徳	辰男	辰己	辰郎	哲巖	軍二	泰二	源二	重則	末男	森武
五二	二二	二二	二二	一一	一一	一三	二二	二二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	五三	二二	二二	三五	一一	一一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	戦	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	引
五四〇	五三九	五三八	五三七	五三六	五三五	五三四	五三三	五三二	五三一	五三〇	五二九	五二八	五二七	五二六	五二五	五二四	五二三	五二二	五二一	五二〇	五一九	五一八	五一七	五一六	五一五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	石
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	谷
西田	町下	木中	畑下	木永	富村	西村	西藤	木田	森崎	川田	宇原	川原	新田	鶴田	鶴田	鶴田	鶴田	飯来	市場	的盛	加藤	出畑	出実	森山	四元
シ	烈	ヨシ	ミエ	良雄	茂市	己太郎	清隆	有吉	カワ	国則	スギ	善之助	ツナ	清隆	トミ子	信子	ミチ子	チヨ子	盛蔵	正男	ヒデ	ミエ	清明	盛範	
二二	三三	五五	一一	四四	五五	三三	二二	二二	五五	二二	四四	四四	七七	一一	一一	一一	一一	一一	一一	四四	四四	二二	一一	一一	五五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	戦

五六六	五六五	五六四	五六三	五六二	五六一	五六〇	五五九	五五八	五五七	五五六	五五五	五五四	五五三	五五二	五五一	五五〇	五四九	五四八	五四七	五四六	五四五	五四四	五四三	五四二	五四一
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	石谷
今川マサ子	満尾静夫	草留義男	上村礼子	林永隆吉	久保サチ子	猪元サ猛	四元	四山	外山	中原	四元	玉利	外山	森山	石神	森山	町田	益満	鶴田	久木重志	久木厚功	新村清治	新村木蔵	柏木徳蔵	西原武二
二六	二六	二一	一三	七一	一	一	一一	二四	一三	一三	一三	三三	三三	三三	四四	四五	一五	一五	一三	一一	一一	一一	一一	一六	一六
◇	◇	◇	戦	◇	引戦	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	引戦

五九二	五九一	五九〇	五八九	五八八	五八七	五八六	五八五	五八四	五八三	五八二	五八一	五八〇	五七九	五七八	五七七	五七六	五七五	五七四	五七三	五七二	五七一	五七〇	五六九	五六八	五六七
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	石谷
益満新次郎	益満ユキ子	鶴田三郎	益満シマ	飯牟礼キヌ子	前田利光	柏木サダ子	森山シナエ	堀之口二	新村ミ	末三太郎	久木辰雄	早下弘美	山田キヌ子	梅下ナツ子	大田秀夫	盛田有吉	鶴田久ミ	西江スミ子	新福三郎	三浦清行	有馬純高	児玉正治	堀之口嘉蔵	合六葵	
七一	一二	二四	四五	三三	一一	二二	一六	一四	一四	一五	一一	一一	一四	一四	一五	一一	一四	一三	一三	一三	一三	一八	一六	一六	
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	戦	引	戦	引	◇	◇	◇	◇	戦	◇	◇	◇	◇	引	戦	

六〇四	六〇三	六〇二	六〇一	六〇〇	五九九	五九八	五九七	五九六	五九五	五九四	五九三
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	石谷
柴田精一	古川安則	森清	飯牟礼	益満輝	吉村順	四元民	四元宗	河野直	玉利	東条ワ	高山ノ子
五				六	一	二	一	一	二	一	一
◇				◇				◇	◇	引	戦

松元町小字名一覽

上谷口

伊勢ヶ坊 本下ヶ坊 後松ヶ坊 小松ヶ坊 津見ヶ坊 田臣ヶ坊 大迫平 大迫原 喜次郎 喜次郎 谷口 大原山 耳原 火ノ宇都 板井ヶ坊 井戸ヶ坊 馬ヶ字 吉ヶ字 吉ヶ字

下若柿 柿元井 松ノ井 井ノ保 久保 迫人 和入 下伊 陣入 後道 板本 西元 田川 勢ヶ田 宮 田松 下手 元上 上田 田田田田 下原 口平 迫田 下苗 坊

小瀬山 山ヶ柿 瀬ヶ大 三折 上カ下ニ 丸長山 北井 久木 柳馬 田原春 瀬戸ノ 原ノケガ 反尾折 折ヶ手保之 堀上 口前 迫迫 谷田 谷平 尾尾 田田 浦迫 平山 下下 越下

松元川 向ヶ木 柿ノ木 平ヶケガ 梅深 同柳 前ヶ頭 谷立 堀ヶ木 堀ヶ切 小耳田 境新 柳田 耳田 中ノ堀 大ノ堀 大ノ堀 原松 迫原 丸迫 休平 迫原 迫平 切原 田竿 原原 迫原 岡平

市頭ノ別 小口内 善上 山サ 中平 平平 小谷 谷平 中平 榎山 竹上 前 来ッ心 心ノ 田久 王野 長ヶ口 津 ヲン川 平迫 迫原 原坪 向ヶ福 保免 原岡 野ノ 田原 原町 田田 下下 原田

横三ヶ寺 長ヶ寺 上ヶ寺 立ヶ寺 谷立 七ヶ番 七ヶ枚 立彼 彼ノ 神ノ 櫛ヶ手 井立 折イ 茂タ 篠タ 芭原 山ヶ之 新ヶ之 道反 迫迫 原原 上ヶ下 枚平 田前 田春 番田 口迫 堀ヶ蕉 口浦

福山

宮内 小上 早上 梨下 岩下 樋下 園島 下迫 迫谷 隱瀬 下下 中 門山 山ヶ椿 田ヶ瀬 瀬ヶ之 椿ヶ 戸寺 田上 下城 下戸 木戸 下口 城田 廻 竹田 頭迫 口迫 迫道

坂ヶア 大イ コ中 中ヶ鎮 庵大 柿迫 山ヶ野 上ヶ上 袋三 古鎌 土迫 京ヶ京 前 ンク ヲバ 守ノ 宇久 ヶケ ノ中 北ヶケ 反ヶケ 取ヶノ 田ヶ田 下セ 丸タ 園下 都保 丸イ 田口 田迫 谷田 川迫 口上 上上 下下 田



八<sub>ハ</sub>下<sub>カ</sub>上<sub>カ</sub>柿<sub>カ</sub>大<sub>キ</sub>西<sub>シ</sub>外<sub>ガ</sub>堂<sub>ト</sub>九<sub>ク</sub>寺<sub>ツ</sub>北<sub>キ</sub>北<sub>キ</sub>  
松<sub>マ</sub>松<sub>マ</sub>久<sub>ク</sub>ノノノ万<sub>マン</sub>田<sub>タ</sub>  
石<sub>シ</sub>崎<sub>サ</sub>崎<sub>サ</sub>内<sub>チ</sub>保<sub>ホ</sub>原<sub>ハ</sub>園<sub>エン</sub>原<sub>ハ</sub>田<sub>タ</sub>迫<sub>ツ</sub>平<sub>ヘ</sub>田<sub>タ</sub>

入  
佐

三<sub>ミ</sub>平<sub>ヘ</sub>上<sub>カ</sub>一<sub>イチ</sub>五<sub>ゴ</sub>角<sub>ツ</sub>五<sub>ゴ</sub>塔<sub>ト</sub>  
葉<sub>ハ</sub>飛<sub>ト</sub>里<sub>リ</sub>島<sub>ト</sub>ノノ  
山<sub>ヤマ</sub>谷<sub>ヤ</sub>渡<sub>ワ</sub>坂<sub>サ</sub>田<sub>タ</sub>免<sub>メ</sub>平<sub>ヘ</sub>原<sub>ハ</sub>

下<sub>シ</sub>百<sub>ヒャク</sub>鍋<sub>ナベ</sub>市<sub>チ</sub>市<sub>チ</sub>上<sub>カ</sub>賀<sub>ガ</sub>西<sub>シ</sub>巢<sub>ス</sub>田<sub>タ</sub>八<sub>ハ</sub>上<sub>カ</sub>川<sub>カ</sub>巢<sub>ス</sub>松<sub>マ</sub>大<sub>キ</sub>堀<sub>ホ</sub>北<sub>キ</sub>下<sub>シ</sub>横<sub>ヨ</sub>木<sub>キ</sub>供<sub>ケ</sub>  
東<sub>トウ</sub>ノ<sub>ノ</sub>来<sub>キ</sub>平<sub>ヘ</sub>良<sub>ラ</sub>巢<sub>ス</sub>山<sub>ヤマ</sub>山<sub>ヤマ</sub>山<sub>ヤマ</sub>下<sub>カ</sub>下<sub>カ</sub>ノ<sub>ノ</sub>ケ<sub>ガ</sub>見<sub>ミ</sub>勢<sub>セ</sub>ケ<sub>ケ</sub>養<sub>ヤ</sub>  
原<sub>ハ</sub>田<sub>タ</sub>原<sub>ハ</sub>平<sub>ヘ</sub>来<sub>キ</sub>石<sub>シ</sub>田<sub>タ</sub>原<sub>ハ</sub>谷<sub>ヤ</sub>尻<sub>シ</sub>保<sub>ホ</sub>原<sub>ハ</sub>迫<sub>ツ</sub>原<sub>ハ</sub>原<sub>ハ</sub>モ<sub>モ</sub>内<sub>チ</sub>迫<sub>ツ</sub>原<sub>ハ</sub>谷<sub>ヤ</sub>山<sub>ヤマ</sub>元<sub>ゲン</sub>

木<sub>キ</sub>若<sub>ニ</sub>長<sub>チ</sub>向<sub>カ</sub>大<sub>キ</sub>出<sub>デ</sub>上<sub>カ</sub>長<sub>チ</sub>分<sub>ブン</sub>下<sub>カ</sub>小<sub>コ</sub>芋<sub>イモ</sub>湯<sub>ユ</sub>城<sub>シロ</sub>下<sub>カ</sub>上<sub>カ</sub>桃<sub>モモ</sub>古<sub>コ</sub>樫<sub>シ</sub>松<sub>マ</sub>下<sub>カ</sub>上<sub>カ</sub>  
屋<sub>ヤ</sub>宮<sub>ミヤ</sub>大<sub>キ</sub>ノ<sub>ノ</sub>芦<sub>アシ</sub>木<sub>キ</sub>芦<sub>アシ</sub>野<sub>ノ</sub>穴<sub>アナ</sub>ノ<sub>ノ</sub>久<sub>ク</sub>久<sub>ク</sub>木<sub>キ</sub>ケ<sub>ケ</sub>平<sub>ヘ</sub>東<sub>トウ</sub>  
下<sub>カ</sub>田<sub>タ</sub>山<sub>ヤマ</sub>谷<sub>ヤ</sub>谷<sub>ヤ</sub>尾<sub>ビ</sub>狩<sub>カ</sub>堀<sub>ホ</sub>場<sub>バ</sub>狩<sub>カ</sub>狩<sub>カ</sub>原<sub>ハ</sub>口<sub>ク</sub>下<sub>カ</sub>田<sub>タ</sub>田<sub>タ</sub>田<sub>タ</sub>迫<sub>ツ</sub>谷<sub>ヤ</sub>下<sub>カ</sub>石<sub>シ</sub>原<sub>ハ</sub>

滝<sub>タキ</sub>長<sub>チ</sub>高<sub>タカ</sub>内<sub>チ</sub>上<sub>カ</sub>下<sub>カ</sub>花<sub>ハ</sub>柿<sub>カ</sub>前<sub>マ</sub>川<sub>カ</sub>口<sub>ク</sub>岩<sub>イワ</sub>越<sub>ユ</sub>隠<sub>カク</sub>葛<sub>カ</sub>上<sub>カ</sub>下<sub>カ</sub>平<sub>ヘ</sub>堤<sub>ツツ</sub>大<sub>キ</sub>五<sub>ゴ</sub>  
ノ<sub>ノ</sub>田<sub>タ</sub>野<sub>ノ</sub>日<sub>ヒ</sub>日<sub>ヒ</sub>牟<sub>ム</sub>野<sub>ノ</sub>井<sub>イ</sub>ノ<sub>ノ</sub>屋<sub>ヤ</sub>ノ<sub>ノ</sub>箒<sub>ハシ</sub>川<sub>カ</sub>川<sub>カ</sub>木<sub>キ</sub>反<sub>タン</sub>  
元<sub>ゲン</sub>尾<sub>ビ</sub>平<sub>ヘ</sub>々<sub>々</sub>影<sub>カゲ</sub>影<sub>カゲ</sub>礼<sub>レイ</sub>野<sub>ノ</sub>原<sub>ハ</sub>田<sub>タ</sub>坪<sub>ツツ</sub>原<sub>ハ</sub>尾<sub>ビ</sub>田<sub>タ</sub>迫<sub>ツ</sub>内<sub>チ</sub>内<sub>チ</sub>場<sub>バ</sub>山<sub>ヤマ</sub>坪<sub>ツツ</sub>田<sub>タ</sub>

人<sub>ヒト</sub>城<sub>シロ</sub>島<sub>シマ</sub>森<sub>シム</sub>仁<sub>ニ</sub>仏<sub>ブツ</sub>觀<sub>カン</sub>二<sub>ニ</sub>前<sub>マ</sub>宇<sub>ウ</sub>火<sub>ヒ</sub>芝<sub>シ</sub>小<sub>コ</sub>飛<sub>ト</sub>山<sub>ヤマ</sub>鍋<sub>ナベ</sub>横<sub>ヨ</sub>寺<sub>ツ</sub>寺<sub>ツ</sub>  
城<sub>シロ</sub>ノ<sub>ノ</sub>反<sub>タン</sub>音<sub>オン</sub>反<sub>タン</sub>田<sub>タ</sub>ノ<sub>ノ</sub>原<sub>ハ</sub>坂<sub>サ</sub>ケ<sub>ケ</sub>ケ<sub>ケ</sub>ン<sub>ン</sub>  
石<sub>シ</sub>岡<sub>オカ</sub>盛<sub>セイ</sub>園<sub>エン</sub>田<sub>タ</sub>田<sub>タ</sub>平<sub>ヘ</sub>岡<sub>オカ</sub>田<sub>タ</sub>都<sub>ツ</sub>丸<sub>マル</sub>平<sub>ヘ</sub>原<sub>ハ</sub>礼<sub>レイ</sub>根<sub>ネ</sub>山<sub>ヤマ</sub>瀬<sub>セ</sub>脇<sub>ワキ</sub>田<sub>タ</sub>

春  
山

山<sub>ヤマ</sub>山<sub>ヤマ</sub>屋<sub>ヤ</sub>上<sub>カ</sub>折<sub>セ</sub>倉<sub>クラ</sub>白<sub>シロ</sub>深<sub>シ</sub>小<sub>コ</sub>小<sub>コ</sub>後<sub>コト</sub>猿<sub>イヌ</sub>中<sub>ナカ</sub>大<sub>キ</sub>北<sub>キ</sub>中<sub>ナカ</sub>井<sub>イ</sub>姫<sub>ヒメ</sub>山<sub>ヤマ</sub>馬<sub>ウマ</sub>小<sub>コ</sub>  
浦<sub>ウラ</sub>尾<sub>ビ</sub>石<sub>シ</sub>原<sub>ハ</sub>ケ<sub>ケ</sub>ケ<sub>ケ</sub>ケ<sub>ケ</sub>ノ<sub>ノ</sub>ケ<sub>ケ</sub>迫<sub>ツ</sub>伏<sub>フ</sub>山<sub>ヤマ</sub>  
頭<sub>カシラ</sub>浦<sub>ウラ</sub>村<sub>ムラ</sub>床<sub>トコ</sub>迫<sub>ツ</sub>置<sub>ツ</sub>岡<sub>オカ</sub>入<sub>イ</sub>原<sub>ハ</sub>迫<sub>ツ</sub>谷<sub>ヤ</sub>渡<sub>ワ</sub>尾<sub>ビ</sub>堀<sub>ホ</sub>迫<sub>ツ</sub>原<sub>ハ</sub>尻<sub>シ</sub>迫<sub>ツ</sub>山<sub>ヤマ</sub>場<sub>バ</sub>下<sub>カ</sub>

下<sub>カ</sub>三<sub>サン</sub>床<sub>トコ</sub>帯<sub>オビ</sub>初<sub>ハツ</sub>中<sub>ナカ</sub>中<sub>ナカ</sub>小<sub>コ</sub>川<sub>カ</sub>川<sub>カ</sub>集<sub>ツ</sub>馬<sub>ウマ</sub>別<sub>ワカ</sub>浅<sub>アサ</sub>長<sub>チ</sub>長<sub>チ</sub>明<sub>メイ</sub>大<sub>キ</sub>境<sub>サカイ</sub>棧<sub>セキ</sub>友<sub>トモ</sub>棧<sub>セキ</sub>  
リ<sub>リ</sub>反<sub>タン</sub>ノ<sub>ノ</sub>ケ<sub>ケ</sub>ケ<sub>ケ</sub>丸<sub>マル</sub>丸<sub>マル</sub>路<sub>チ</sub>ノ<sub>ノ</sub>渡<sub>ワ</sub>府<sub>フ</sub>見<sub>ミ</sub>崎<sub>サ</sub>ケ<sub>ケ</sub>數<sub>ス</sub>前<sub>マ</sub>數<sub>ス</sub>  
山<sub>ヤマ</sub>田<sub>タ</sub>丸<sub>マル</sub>迫<sub>ツ</sub>田<sub>タ</sub>迫<sub>ツ</sub>平<sub>ヘ</sub>保<sub>ホ</sub>内<sub>チ</sub>内<sub>チ</sub>上<sub>カ</sub>リ<sub>リ</sub>平<sub>ヘ</sub>渡<sub>ワ</sub>迫<sub>ツ</sub>崎<sub>サ</sub>平<sub>ヘ</sub>谷<sub>ヤ</sub>原<sub>ハ</sub>迫<sub>ツ</sub>原<sub>ハ</sub>原<sub>ハ</sub>原<sub>ハ</sub>

山<sub>ヤマ</sub>屋<sub>ヤ</sub>八<sub>ハチ</sub>花<sub>ハナ</sub>津<sub>ツ</sub>津<sub>ツ</sub>中<sub>ナカ</sub>横<sub>ヨ</sub>熊<sub>クマ</sub>米<sub>メ</sub>大<sub>キ</sub>上<sub>カ</sub>中<sub>ナカ</sub>下<sub>カ</sub>大<sub>キ</sub>木<sub>キ</sub>大<sub>キ</sub>田<sub>タ</sub>城<sub>シロ</sub>餅<sub>ホウ</sub>永<sub>エイ</sub>鈴<sub>スズ</sub>  
數<sub>ス</sub>ノ<sub>ノ</sub>牟<sub>ム</sub>ノ<sub>ノ</sub>見<sub>ミ</sub>ノ<sub>ノ</sub>谷<sub>ヤ</sub>大<sub>キ</sub>大<sub>キ</sub>大<sub>キ</sub>谷<sub>ヤ</sub>入<sub>イ</sub>場<sub>バ</sub>浦<sub>ウラ</sub>平<sub>ヘ</sub>ノ<sub>ノ</sub>ケ<sub>ケ</sub>イ  
登<sub>ノボセ</sub>谷<sub>ヤ</sub>保<sub>ホ</sub>礼<sub>レイ</sub>頭<sub>カシラ</sub>目<sub>メ</sub>路<sub>チ</sub>谷<sub>ヤ</sub>路<sub>チ</sub>山<sub>ヤマ</sub>頭<sub>カシラ</sub>谷<sub>ヤ</sub>谷<sub>ヤ</sub>谷<sub>ヤ</sub>口<sub>ク</sub>田<sub>タ</sub>口<sub>ク</sub>路<sub>チ</sub>崎<sub>サ</sub>丸<sub>マル</sub>山<sub>ヤマ</sub>立<sub>タテ</sub>

瀬<sup>セ</sup>前<sup>マエ</sup>横<sup>ヨコ</sup>丸<sup>マル</sup>楠<sup>クスノキ</sup>岩<sup>イワ</sup>伊<sup>イ</sup>笠<sup>カサ</sup>岩<sup>イワ</sup>新<sup>シン</sup>  
戸<sup>ド</sup>トケン ケガ 牟<sup>ム</sup>下<sup>シタ</sup>  
口<sup>クチ</sup>谷<sup>ヤ</sup>枕<sup>マクら</sup>田<sup>タ</sup>丸<sup>マル</sup>下<sup>シタ</sup>田<sup>タ</sup>松<sup>マツ</sup>平<sup>ヒラ</sup>村<sup>ムラ</sup>

石  
谷

小<sup>コ</sup>小<sup>コ</sup>小<sup>コ</sup>石<sup>イシ</sup>岩<sup>イワ</sup>  
川<sup>カハ</sup>川<sup>カハ</sup>瀬<sup>セ</sup>  
路<sup>チミ</sup>小<sup>コ</sup>  
野<sup>ノ</sup>路<sup>チミ</sup>頭<sup>カビ</sup>路<sup>チミ</sup>戸<sup>ド</sup>

雪<sup>ユキ</sup>伏<sup>フス</sup>船<sup>フネ</sup>梨<sup>リ</sup>馬<sup>ウマ</sup>馬<sup>ウマ</sup>堤<sup>ツツ</sup>堤<sup>ツツ</sup>中<sup>ナカ</sup>牛<sup>ウシ</sup>丸<sup>マル</sup>深<sup>フカ</sup>地<sup>チ</sup>ニ<sup>ニ</sup>小<sup>コ</sup>小<sup>コ</sup>五<sup>イ</sup>  
ケガ ケ木<sup>キ</sup>込<sup>コ</sup>ケガケガ尾<sup>ビ</sup>本<sup>ホン</sup>松<sup>マツ</sup>竹<sup>タケ</sup>ツツ  
丸<sup>マル</sup>野<sup>ノ</sup>迫<sup>セ</sup>迫<sup>セ</sup>崎<sup>サキ</sup>渡<sup>ワタリ</sup>迫<sup>セ</sup>迫<sup>セ</sup>田<sup>タ</sup>頭<sup>カビ</sup>岡<sup>オカ</sup>迫<sup>セ</sup>眼<sup>メ</sup>松<sup>マツ</sup>迫<sup>セ</sup>山<sup>ヤマ</sup>割<sup>ワ</sup>

高<sup>タカ</sup>山<sup>ヤマ</sup>鳥<sup>トリ</sup>折<sup>オリ</sup>門<sup>カド</sup>門<sup>カド</sup>鍛<sup>カ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>桑<sup>カ</sup>仁<sup>ニ</sup>栢<sup>カ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>隠<sup>カクレ</sup>高<sup>タカ</sup>触<sup>サス</sup>堀<sup>ホリ</sup>濡<sup>ヌル</sup>  
王<sup>オウ</sup>ノ 貫<sup>クワン</sup>ノ 田<sup>タ</sup>ケガ ノノケガ  
塚<sup>ツツ</sup>免<sup>メ</sup>喰<sup>ク</sup>尾<sup>ビ</sup>平<sup>ヒラ</sup>貫<sup>クワン</sup>屋<sup>ヤ</sup>迫<sup>セ</sup>尾<sup>ビ</sup>迫<sup>セ</sup>尾<sup>ビ</sup>堀<sup>ホリ</sup>迫<sup>セ</sup>迫<sup>セ</sup>城<sup>シロ</sup>園<sup>エン</sup>内<sup>ウチ</sup>丸<sup>マル</sup>

中<sup>ナカ</sup>池<sup>イケ</sup>古<sup>コ</sup>屋<sup>ヤ</sup>堂<sup>ドウ</sup>弓<sup>ユミ</sup>道<sup>ミチ</sup>岩<sup>イワ</sup>猫<sup>ネコ</sup>弓<sup>ユミ</sup>木<sup>キ</sup>飛<sup>トビ</sup>前<sup>マエ</sup>田<sup>タ</sup>前<sup>マエ</sup>後<sup>アト</sup>西<sup>セ</sup>  
田<sup>タ</sup>形<sup>カタ</sup>ノ 井<sup>イ</sup>場<sup>バ</sup>場<sup>バ</sup>ノノケガノノ  
尾<sup>ビ</sup>岡<sup>オカ</sup>里<sup>リ</sup>迫<sup>セ</sup>前<sup>マエ</sup>場<sup>バ</sup>場<sup>バ</sup>谷<sup>ヤ</sup>尾<sup>ビ</sup>山<sup>ヤマ</sup>田<sup>タ</sup>松<sup>マツ</sup>山<sup>ヤマ</sup>面<sup>オモテ</sup>田<sup>タ</sup>谷<sup>ヤ</sup>原<sup>ハラ</sup>

笠<sup>カサ</sup>慶<sup>ケイ</sup>内<sup>ウチ</sup>六<sup>ロク</sup>袖<sup>スリーブ</sup>慶<sup>ケイ</sup>井<sup>イ</sup>精<sup>セイ</sup>横<sup>ヨコ</sup>嶋<sup>シマ</sup>西<sup>セ</sup>中<sup>ナカ</sup>栢<sup>カ</sup>北<sup>キタ</sup>後<sup>アト</sup>逢<sup>オウ</sup>芋<sup>イモ</sup>  
ス慶<sup>ケイ</sup>ケケケガス牟<sup>ム</sup>枕<sup>マクら</sup>巡<sup>メグ</sup>ケガケン  
松<sup>マツ</sup>田<sup>タ</sup>ス所<sup>ショ</sup>迫<sup>セ</sup>平<sup>ヒラ</sup>平<sup>ヒラ</sup>山<sup>ヤマ</sup>平<sup>ヒラ</sup>平<sup>ヒラ</sup>平<sup>ヒラ</sup>原<sup>ハラ</sup>頭<sup>カビ</sup>俣<sup>ヒ</sup>迫<sup>セ</sup>迫<sup>セ</sup>洗<sup>シ</sup>

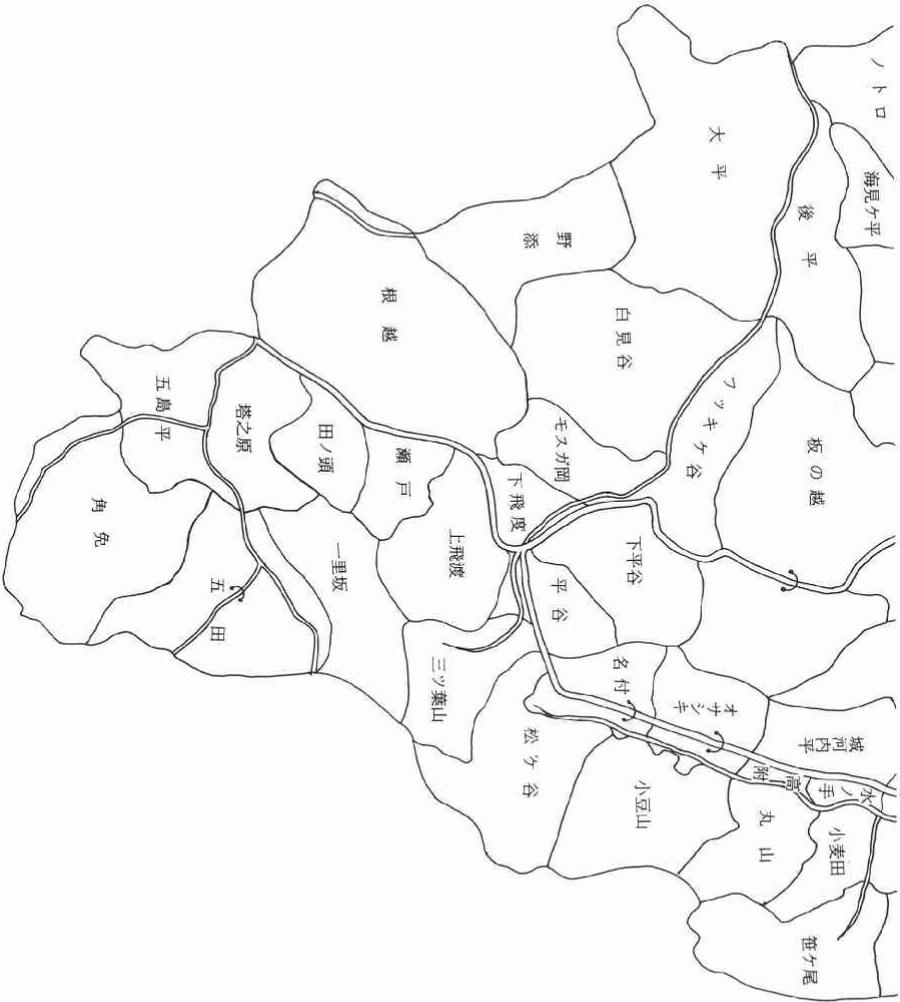
花<sup>ハナ</sup>内<sup>ウチ</sup>大<sup>ダイ</sup>枇<sup>ヒ</sup>大<sup>ダイ</sup>中<sup>ナカ</sup>慶<sup>ケイ</sup>狩<sup>カ</sup>矢<sup>ヤ</sup>雀<sup>スズメ</sup>山<sup>ヤマ</sup>座<sup>ザ</sup>  
枇<sup>ヒ</sup>枇<sup>ヒ</sup>慶<sup>ケイ</sup>俣<sup>ヒ</sup>ノノ内<sup>ウチ</sup>ス  
立<sup>タテ</sup>木<sup>キ</sup>木<sup>キ</sup>木<sup>キ</sup>ス岡<sup>オカ</sup>ス迫<sup>セ</sup>迫<sup>セ</sup>神<sup>カミ</sup>田<sup>タ</sup>免<sup>メ</sup>

小字図 (大字上谷口)

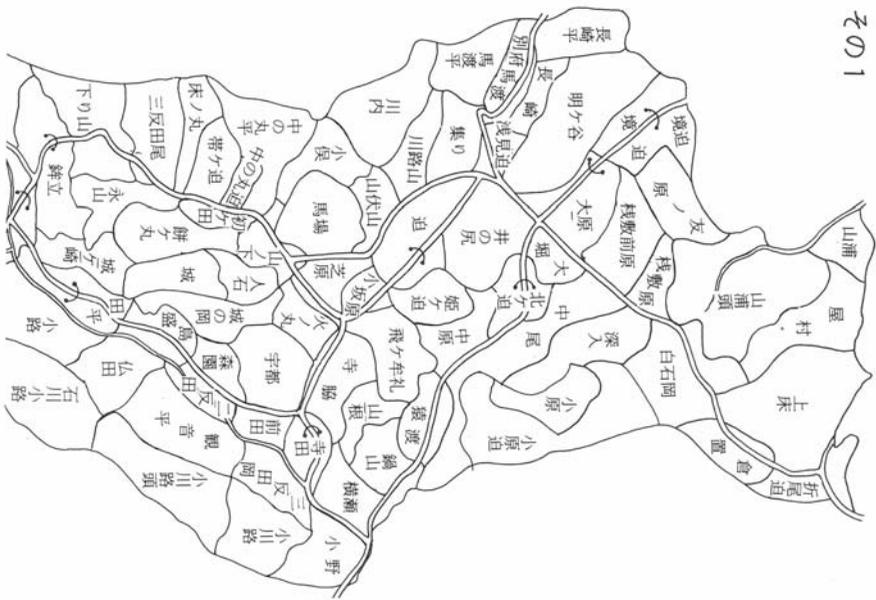




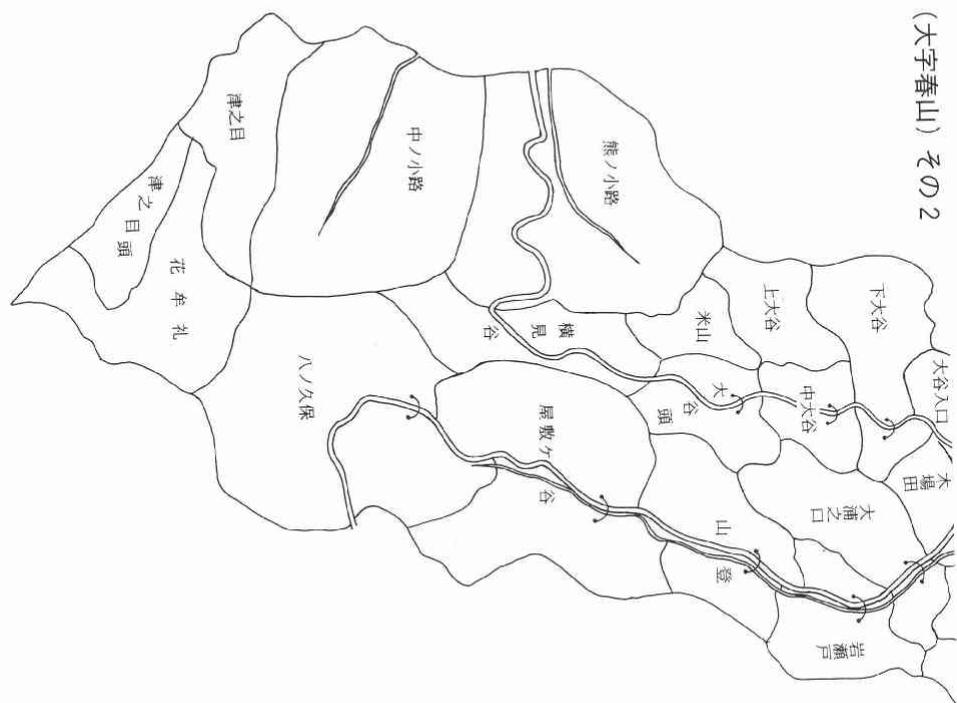
小字図 (大字直木) その2



小字図 (大字春山) その1

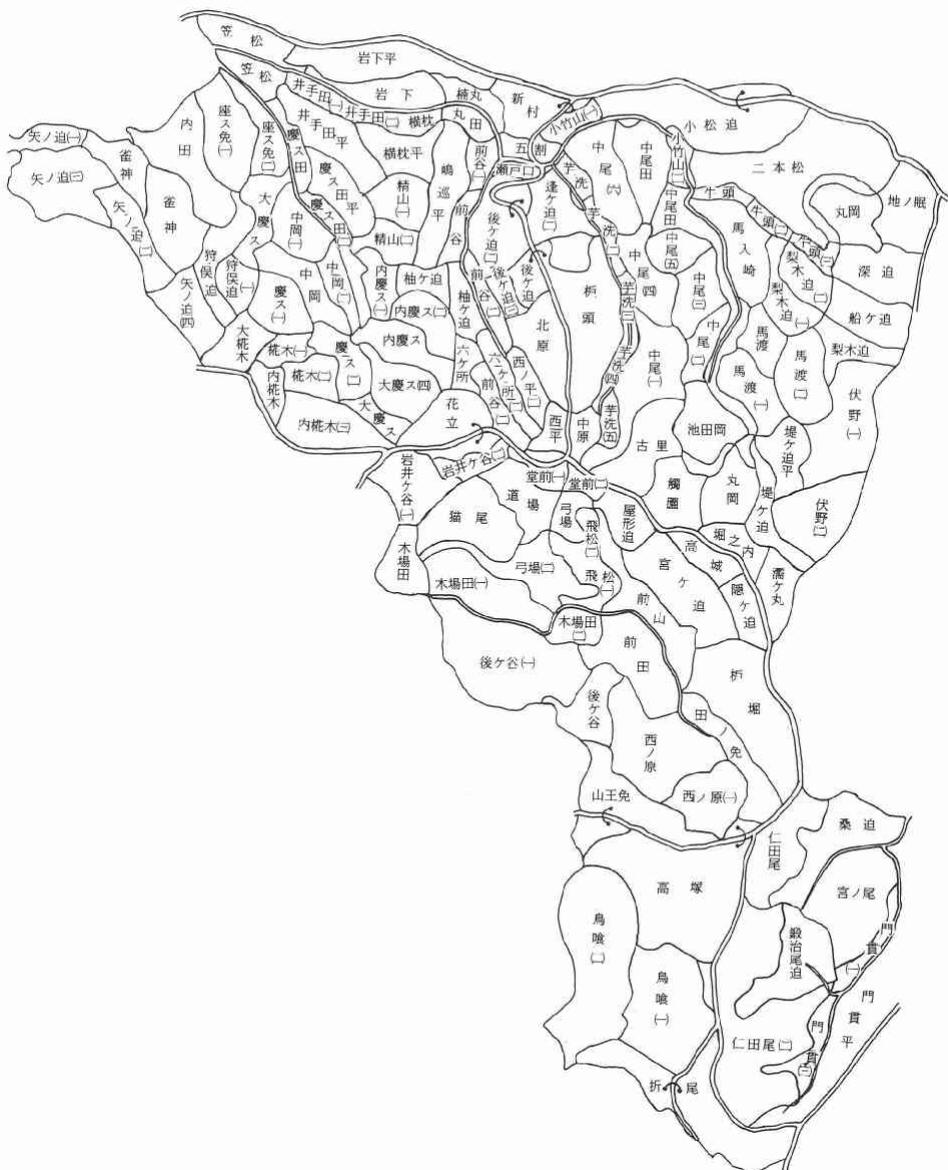


小字図 (大字春山) その2





小字図 (大字石谷)



小字図 (大字福山)



鎌	倉	時	代	時代	事項
三代 久経	二代 忠時			忠代 久	島津氏
二七六	二六九	二六五	二六一	二五〇	二四七
二七五	二七二	二六七	二六二	二五三	二四八
建治 元	〃 九	〃 四	弘長 元	建長 二	承久 三
〃 二	〃 六	文永 二	〃 元	〃 五	〃 七
初鶴御前への売却状	僧慶西讓水案	島津長久伊集院地頭職に補せらる。	沙弥寂澄田地売券案	麦生田平等寺頼通法印入定窟と中河時村と西俣名主比志島栄尊と争論。	承久の乱おこる。
島津久経はじめて領国薩摩に下る。	山田忠真谷山の山田地頭職を譲られる。	島津忠時長子久経に薩摩守護職を譲る。	島津忠時長子久経に薩摩守護職を譲る。	田帳成る(松本十八町万得と見ゆ。)	惟宗忠久入薩
	蒙古の大軍博多に來攻す(文永の役)。				惟宗忠久島津氏を称す。建久凶
					源頼朝征夷大將軍となる。惟宗忠久日置郡南部及北郷の地頭となる。

室	町	時	代	貞	忠	事項
七代 元久	六代 氏久			五代 貞久	四代 忠宗	
一三九二	一三四七	一三四二	一三四一	一三三八	一三八四	一三八一
一三九〇	一三四八	〃	興国 二	一三三三	一三二八	〃
元中 元	〃 三	〃 三	〃 二	一三三三	正応 元	弘安 四
〃 七	〃 五	〃 三	〃 二	一三三五	〃	〃
九	〃 一八	〃 三	〃 二	延元 元	嘉暦 三	〃
南北朝合体	創建	應ず。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	建武 二	伊集院 元	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
法智山妙円寺建立	伊集院忠国郡山城を陥す。	西征將軍懷良親王薩摩に着し谷山城に入り、伊集院忠国これに	町田助久、島津忠久に仕え谷山合戦に出る。伊集院忠国、官軍に	元弘 三	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
石屋禪師春山村に直林寺建立	島津貞久逝去(九五歳)廣濟寺	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	足利尊氏後醍醐天皇に叛く。	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
南北朝合体	伊集院忠国郡山城を陥す。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	尊氏九州に奔り、東上して北朝を立つ。後醍醐天皇吉野朝廷樹立。	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	懷良親王肥後へ移る。	西征將軍懷良親王薩摩に着し谷山城に入り、伊集院忠国これに	町田助久、島津忠久に仕え谷山合戦に出る。伊集院忠国、官軍に	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	楠正行四条畷に戦死す。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	伊集院忠国郡山城を陥す。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	島津貞久逝去(九五歳)廣濟寺	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	創建	應ず。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	石屋禪師春山村に直林寺建立	西征將軍懷良親王薩摩に着し谷山城に入り、伊集院忠国これに	町田助久、島津忠久に仕え谷山合戦に出る。伊集院忠国、官軍に	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	法智山妙円寺建立	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。
	南北朝合体	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	島津忠久、伊集院忠国を平城(古城)に攻む。	〃	〃	伊集院一宇治城内に神明神社を建つ。

室	町	時	代
忠 <sup>十三代</sup> 隆	忠 <sup>十一代</sup> 昌	立 <sup>十代</sup> 久	忠 <sup>九代</sup> 国
二四九二	二四八五	二四六七	二四四一
延徳四	文明三 〃五	応仁元	正長元 嘉吉元
コロンブス、アメリカ大陸発見	島津忠昌、乱を恐れ夫人を一字治城に移す。入佐村大島明神奉納鰐口の銘。	秋月「明」に渡る。 桜島大噴火 桂庵、明より帰朝す。	石屋禪師入寂(七九歳) 島津忠国、足利義昭を櫛間に殺す。六月赤松満祐將軍義教を謀殺、幕府琉球を島津氏に属せしむ。 春山直林寺四世仲翁和尚彦山権現再興。
			鹿兒島に福昌寺建立 島津元久没し、伊集院頼久の乱おこる。 伊集院頼久、島津久豊と和し、石谷三十町を獻じ川辺に隠棲。 良範上人猪鹿倉に真言宗莊嚴寺建立

室	町	時	代
			勝 <sup>十四代</sup> 久
二五四九	二五四五	二五三七	二五〇八
〃一八	〃一四	〃六	明応七 永正五
フランシスコ・ザビエル、一字治城に貴久を訪ね、キリスト教	島津貴久、一字治城を三州守護の居城と定む。	島津忠良、竹山墨を攻め肥後盛治討死、福山墨の城主肥後盛家城を棄てて鹿兒島に走る。	バスコダガマ、印度に上陸 島津忠昌自殺(四六歳) 六月十五日、桂庵入寂(八二歳) 島津忠良(日新公)伊集院を領す。 直木の鎮守並に若宮大明神造立 島津実久、伊集院を攻略し、町田久用に伊集院を守らせ、又肥後盛栄に福山墨を守らせた。 海田小左衛門、福山小長崎神社再興
			島津日新、貴久日置南郷を攻略して永吉と改称。伊集院地頭島津孝久、上谷口本坊に稲荷大明神建立 四元山ノ神宮石燈籠及聖神社石燈籠奉納 三月、忠良父子、一字治城を攻略石谷梅久、忠親兄弟、伏野原に戦死。

安 土 ・ 桃 山 時 代			
義 <sup>十七代</sup> 弘		義 <sup>十六代</sup> 久	貴 <sup>十五代</sup> 久
二五九二	二五八七	二五八二	二五五〇
文録 元	〃一五	〃一〇	天文一九
四月、義弘は秀吉の命により朝	五月、島津義久秀吉に降る。この時石谷城主町田久倍、義久の従者として川内太平寺に使す。	本能寺の変、信長死す(四九歳)。島津軍・竜造寺隆信を島原に斬る。	の布教を許される。貴久一宇治城を去り、鹿児島の内城に移る。第一回川中島の戦。伊集院地頭島津孝久、郡山智賀尾神社及び上谷口稻荷大明神再興 春山彦山神社再興 信長、桶狭間に義元を滅す。 直木村四元、聖神社拝殿造営 貴久、守護職を長子義久に与える。 島津忠良、加世田に没す(七七歳) 菱刈、大口地方を攻略 廣濟寺雪岑を琉球に派遣 菱刈重広を上神殿に移す。肝付氏島津氏に降る。この頃の石谷城主は第十八代町田久倍。九月島津義久春山で狩を行う。雪岑再び琉球に使す。

江 戸 時 代			
二六二五	二六一一	二六一〇	二五九四
元和 元	〃一六	〃一五	文録 三
大阪夏の陣、豊臣氏滅ぶ。	島津義久卒す(七六歳) 九月、家老町田久幸、三原重種、伊勢貞昌、比志島国貞、樺山久高連盟で琉球に貢物を命す。	島津久元、福山村、中川村を領有す。	鮮に出兵す。七月歳久自尽す。秀吉の命により、薩隅日三州の検地が始まり、四年二月終る。二月、義弘一向宗を禁す。三月朝鮮再征のため久見崎を出港。八月、秀吉薨す(六三歳)。義弘父子、高野山に供養塔を建てる。 関ヶ原の戦。八月二十五日、町田久倍播州明石に急死す。菱刈町小苗代山に葬る(七五歳)。町田久幸、父久倍に代り関ヶ原の謝罪と和親のため、家康に屏風一双、銘刀一振、緞子十反を献す。 島津氏琉球を征す。家康島津家久に琉球を与える。家久町田久幸を遣し、徳川秀忠に屏風、緞子を献す。又琉球領地の礼として焼酎、虎皮等を贈る。 島津久元、福山村、中川村を領有す。



江	戸	時	代
		繼 <sub>二十</sub> 代 <sub>豊</sub>	
一七三五	〃二〇	〃二	正徳三
一七三二	〃一七	〃四	内田東門観音の仏像を春山直林寺番僧智潭作る。
一七三〇	〃一五	〃六	八月、福山小長崎神社に荘内高城坂元弥左衛門宝御前奉寄進藩苞丁頭石原氏のお献立留に「かるかん」の名見ゆ。
一七二八	〃一三	〃六	藩の馬牧二十力所、馬七、五七二頭、民間の飼養馬二二六、八〇三頭、牛一四、二二三頭。
一七二七	〃一二	〃七	上谷口内田の小原権現再興
一七二三	〃八	〃七	福山中大内田留吉宅裏の道寿禪定門の墓
			藩内田畑の総検査、門地の総割換を行う。以後大規模な割換なし。
			福山小長崎神社鳥居奉納。この頃の日本の総人口二六〇万人
			入佐新村中誓衆三十二人、田之神像造立(具文化財指定)
			入佐大鳥神社石灯笼一基奉納
			六月、大鳥神社に上野平左衛門泰恭、鏝口を奉納
			全国的大飢饉。薩摩甘藷のおかげで飢なし
			春山馬場尻に御仮屋新築、但元文二年廃止、建物は横井に移す。

江	戸	時	代
		宗 <sub>二十三</sub> 代 <sub>信</sub>	
		重 <sub>二十四</sub> 代 <sub>年</sub>	
一七三六	元文元	一七四七	松元門権右衛門、阿弥陀堂一宇建立。内田谷頭阿弥陀堂建立
一七三七	〃二	〃四	孟宗竹はじめて本土渡来
一七三八	〃三	〃五	石谷熊野神社に石灯笼二基奉納
一七三九	〃四	〃三	入佐大鳥神社石灯笼奉納、入佐相中
一七四〇	〃五	〃二	内田東門観音堂の十面観音再興
一七四二	寛保二	〃二	石谷熊野神社境内太神宮奉立
一七四三	〃三	〃二	春山森園田の神像造立(町文化財指定)
一七四五	延享二	〃二	入佐仙寿院中興功德主吞林の墓建立
一七四七	〃四	〃二	十一月、春山棧敷原馬頭観音創建。二月、上谷口村善福寺境内跡に水神倉一箇奉立、二才相中
一七四八	〃五	〃二	春山に行われていた関狩が吉野に移される。
一七五一	寛永四	〃二	春山岩屋観音創始
一七五二	宝暦二	〃二	石谷仁田尾の山之神創立
一七五四	〃四	〃二	幕府木曾川治水工事を薩藩に命ず。
一七五五	〃五	〃二	木曾川治水工事竣工し、五月二十五日、平田正輔自刃する。
一七六七	明和四	〃二	石谷熊野神社御手洗鉢奉納
一七七二	〃八	〃二	上谷口村諏訪大明神造立。松元脇丸病院敷地にあった田之神像造立。

江	戸	時	代
		齊 <sup>二十六代</sup> 宣	重 <sup>二十五代</sup> 豪
一八〇二	一七八八 一七八九	一七八二 一七八三 一七八七	一七八一 一七八〇 一七九七
享和 二	寛政 元	天明 元	安永 六
入佐神野俊一方の花瓶に「伊集院恋原村西門弥左エ門」の記	伊集院郷の人口、一一、四八三人 フランス大革命。ワシントン、米国初代大統領となる 内田小原権現再興。高山彦九郎鹿兒島に来る。露艦根室に来る幕府、林羅山をして諸大名旗本の家系調査を命ず。 島津国史を編纂す。 石谷仁田尾に阿弥陀如来石座像を犬山正右衛門建立 一七九七 一八〇〇	「暖」を「郷土年寄」に改む 大迫助右衛門、「伊集院由緒記」を作る。 春山下り山、山之神造立 鳥居建立。 相中庚申碑奉獻。十二月、二才年起し。 春山彦山神社に十月、馬場二才 直木南原門仲左衛門収納帳この年起し。 桜島大爆發 雨記を作る。 久甫、熊野神社に雨乞いし、晴	石谷領主町田久甫、石谷熊野神社にあった楠公像を本邸に移す。 久甫、熊野神社に雨乞いし、晴雨記を作る。 久甫、熊野神社に雨乞いし、晴雨記を作る。 久甫、熊野神社に雨乞いし、晴雨記を作る。

江	戸	時	代
	齊 <sup>二十八代</sup> 彬		齊 <sup>二十七代</sup> 興
一八六〇	一八五〇 一八五一 一八五二 一八五三 一八五四	一八四四 一八四六 一八五〇 一八五一 一八五二 一八五三 一八五四	一八〇八 一八二五 一八三〇 一八三四 一八三七 一八四〇 一八四三
万延元	安政 元	弘化 元	文化 五
三月三日桜田門の変。有馬新七	西郷隆盛、齊彬に従い初めて江戸に上る。吉田松陰捕えらる。 井伊直弼大老となる。日米修交通商条約調印。僧月照西郷と三船沖に投身。七月十六日齊彬逝去(五十歳) 安政の大獄。吉田松陰、橋本左内処刑 一八五九	四元吉村門助右衛門の墓に「門」の字 米艦浦賀に來り交易を求む。英仏の軍艦那覇に來港 お由羅騒動、高崎、近藤処刑さる。 齊彬襲封 明治天皇誕生 ペリー浦賀に來る。 西郷隆盛、齊彬に従い初めて江戸に上る。吉田松陰捕えらる。 井伊直弼大老となる。日米修交通商条約調印。僧月照西郷と三船沖に投身。七月十六日齊彬逝去(五十歳) 安政の大獄。吉田松陰、橋本左内処刑 一八五九	福山下山王跡の碑。近思録崩れ幕府異国船打払令公布。伊集院野町大火。有馬新七出生 佐藤信淵「薩摩経緯記」を作る 内田の田之神像造立 直木吉松門地蔵像建立 阿片戦争 有馬新七江戸遊学。「三国名勝図会」成る。 一八四三

代 時 戸 江			
			忠 <sup>二十九代</sup> 義
一八六〇	一八六二	一八六三	一八六四
文久元	〃 二	〃 三	元治元
慶応元	〃 二	〃 三	〃 四
石谷奉行として石谷を治む。 石谷楠公神社に市来衆石灯笼奉 建	福山中の山王跡石碑。四月寺田 屋事件で有馬新七死す。八月生 麦事件。	川上十郎親鷹、石谷楠公神社に 東楽の額を奉納す。六月薩英戦 争、町田久長石谷兵を率いて屋 久島波戸砲台に據つて戦う。	蛤御門の変、十一月長州征伐に 伊集院隊出動。町田久成蛤御門 の守護を引受く。 伊集院・郡山隊京都警衛。町田 民部久成等渡欧。 將軍家茂薨去。薩長連合成る。 十二月天皇崩御。 十月外城三番隊上京。十二月王 政復古 鳥羽・伏見の戦。北越戦争。 明治改元。

年表一（町制施行後）	
西曆	昭和
一九六〇	三五
一九六一	三六
一九六二	三七
一九六三	三八
一九六四	三九
月	事 項
四	町制施行、上伊集院村を松元町と改称 初代町長に東純男、初代議長に松元国武 就任
四	町制施行に伴い上伊集院小を松元小に上 伊集院中を松元中に改称
四	国民健康保険事業開始
四	春山地区簡易水道竣工
四	松元小鉄筋校舎落成
八	町役場庁舎別館完成
〇	町商工会発足
三	石谷地区簡易水道竣工
五	松元中剣道部県大会で優勝
一	東昌小鉄筋校舎落成
四	消防自動車購入
四	町自営者クラブ誕生（会員二四人）
九	町長に東純男無投票当選
四	松元町郷土史第一輯発刊
一	春山小PTA、県PTA大会で表彰
一	上伊集院駅開業五十周年記念式挙 行
四	春山小移転及び新校舎開校
五	薩摩松元駅開業十周年記念式挙 行
五	故元村長末永善助翁顕彰碑除幕式

一九六五	四〇	二一	松元駅前郵便局開局	一九六九	四四	二二	石谷小学校移転開校式
		二	松元地区簡易水道竣工			二	町道福山・石谷線開通(延長一、七〇〇㍎)
		四	町制施行五周年記念式典			二	直木共有林で郡植樹祭行われる
		八	台風十五号来襲(被害総額六千万円)			四	松元中学校に特殊学級開設
		七	大阪松元会発足			六	集中豪雨(被害総額二、二〇〇万円)
一九六六	四二	一一	松元中学校、現在地に移転			八	大型製茶工場完成(農協石谷支所)
		二	町立幼稚園創立十周年記念式典			八	県下中学校弓道大会で松元中優勝
		三	町消防団、竿頭綬を受く			一〇	町立学校給食センター完成
		四	町奨学資金制度制定			一一	地域集団電話開通(加入電話九二五台)
		四	町長に東純男氏無投票当選			一一	町青年団柔道チーム県青年大会で優勝
		八	伊集院警察署直木駐在所廃止				全国大会に出場
		九	松元中学校全校舎完成	一九七〇	四五	一	四元地区簡易郵便局開局
		一〇	旧中学校講堂を町中央公民館に移管			二	石谷小学校屋内運動場完成
		一	鹿兒島本線電化複線化工事開始			三	町章・町民歌・町民憲章制定
		二	石谷地区農地保全事業着手			四	町制施行十周年記念式典
		三	松元中学校屋内運動場完成			四	郷土芸能「入佐棒踊り」復活
		三	入佐新村田の神を県の文化財に指定			四	直木地域農地保全事業着手
		三	松元中学校プール完成			六	町総合振興基本計画を策定
		五	明治百年記念町民祭挙行			九	町土地開発基金条令を制定
		七	農業構造改善事業開始(石谷・新村)			一〇	鹿兒島本線全線電化
		九	台風十六号来襲(住家半壊 十二戸) (非住家半壊四十戸)	一九七二	四六	三	町花に菊、町花木につつじ、町木にいぬまきが決定す。
一九六八	四三	一一	入佐地域農地保全事業着手				

一九七三	四八	二	町長に東純男氏無投票当選 松元中学校武道館完成 敬老年金制度制定 町議会議事堂完成 松元中柔道部九州大会へ出場 町立幼稚園増築工事完成 松元町名誉町民条例制定 第一回町茶業振興大会開催 石谷仁田尾に町営住宅十五戸完成 春山原第一期農地保全事業着手 花立原第二期農地保全事業着手 地籍調査事業開始 東海地区松元会結成。会長坂ノ上清信氏 春山小プール完成 春山小創立百周年記念式典 鹿児島広域市町村圏発足 第二十七回国民体育大会（太陽国体） 聖火リレーに本町五区間一二五人参加 春山地区畑地かんがい事業着手 鹿児島市と消防救急応援協定を結ぶ。 第二次地域集団電話開通（六三二台） 石谷小、県学校保健優良校として表彰 高塚町営住宅完成（十五戸） 町工業開発促進条例開始	一九七二	四七	二	鹿兒島広域市町村圏事業開始 東昌小プール完成 東昌小創立八十周年記念式典 石谷小、県学校保健優良校として表彰 大型広域農道第一期工事着手 高塚町営住宅完成（十二戸） 薩摩松元駅開通二十周年記念式典 春山原第二期農地保全事業着手 仁田尾地区農地保全事業着手 町長選挙立会演説会条例制定 石谷小プール完成 消防自動車購入 町制施行十五周年記念式典 「松元お茶音頭」制定（作詞 内身詩守 作曲 土肥寛展） 町長に奥武雄氏当選 東純男氏に名誉町民の称号を贈る 本坊地区下川原に町民グラウンド新設 第一回町政懇談会開催 地下ボーリング成功（二カ所） 町文化協会結成（二〇団体加入） 松元中央保育園開園（定員六〇人） 電話自動化によりダイヤル式に。上伊集院局を松元局に改称（加入台数一、一三三台） 普及率九三・三％ 集中豪雨（被害総額 五五、九二三千円）
一九七三	四八	二	町長に東純男氏無投票当選 松元中学校武道館完成 敬老年金制度制定 町議会議事堂完成 松元中柔道部九州大会へ出場 町立幼稚園増築工事完成 松元町名誉町民条例制定 第一回町茶業振興大会開催 石谷仁田尾に町営住宅十五戸完成 春山原第一期農地保全事業着手 花立原第二期農地保全事業着手 地籍調査事業開始 東海地区松元会結成。会長坂ノ上清信氏 春山小プール完成 春山小創立百周年記念式典 鹿児島広域市町村圏発足 第二十七回国民体育大会（太陽国体） 聖火リレーに本町五区間一二五人参加 春山地区畑地かんがい事業着手 鹿児島市と消防救急応援協定を結ぶ。 第二次地域集団電話開通（六三二台） 石谷小、県学校保健優良校として表彰 高塚町営住宅完成（十五戸） 町工業開発促進条例開始	一九七二	四七	二	鹿兒島広域市町村圏事業開始 東昌小プール完成 東昌小創立八十周年記念式典 石谷小、県学校保健優良校として表彰 大型広域農道第一期工事着手 高塚町営住宅完成（十二戸） 薩摩松元駅開通二十周年記念式典 春山原第二期農地保全事業着手 仁田尾地区農地保全事業着手 町長選挙立会演説会条例制定 石谷小プール完成 消防自動車購入 町制施行十五周年記念式典 「松元お茶音頭」制定（作詞 内身詩守 作曲 土肥寛展） 町長に奥武雄氏当選 東純男氏に名誉町民の称号を贈る 本坊地区下川原に町民グラウンド新設 第一回町政懇談会開催 地下ボーリング成功（二カ所） 町文化協会結成（二〇団体加入） 松元中央保育園開園（定員六〇人） 電話自動化によりダイヤル式に。上伊集院局を松元局に改称（加入台数一、一三三台） 普及率九三・三％ 集中豪雨（被害総額 五五、九二三千円）

一九七八	五三	七	台風九号来襲（被害総額三、三三〇千円） 台風十七号来襲（被害総額四五、七九〇千円） 日置地区塵芥処理場完成（場所伊集院町野田、参加、五力町） 町立幼稚園創立二十周年記念式典 園歌制定 奥武雄町長辞任 町長に畠中市太郎氏無投票当選 鹿児島本線伊集院・薩摩松元駅間複線化完成開通 松元町農協会館竣工 第一回納涼盆おどり大会 東部地区簡易水道事業工事着手 松元中学校ナイター施設完成 広域日置地区森林組合発足 西郷南洲百年記念町民祭挙行 折尾地区に第七投票所新設 石谷簡易郵便局開局 日置中部農協発足（五農協合併） 日置地区植樹祭、四元共有林で挙行 東部地区簡易水道完成 町内簡易水道、町営に移管 交通死亡事故ゼロ一、五〇〇日達成 上坊観音石塔群発掘作業終了。
		八	松元小学校ナイター施設完成 交通死亡事故ゼロ二、五〇〇日達成 松元小屋内運動場完成 石谷小学校創立百周年記念式典 町老人福祉センター落成 日本消防協会表彰旗受賞 町総合振興基本計画樹立 町商工会館落成 仁田尾保育園開園（定員六〇人） 町制施行二十周年記念式典 町最高齢者篠原ヒロさん（二〇五歳）逝去 第一回かしまふるさとまつりで、松元茶手もみ技能披露 平野岡運動公園造成
		九	鎌田知事夫妻、篠原ヒロ（一〇三歳） 植木トヨ（一〇〇歳）を敬老訪問 松元小学校プール完成 広域大型農道第二期工事着手 町消防団、消防長官表彰の竿頭綬を受く 松元小講堂お別れ式（五十八年利用。卒業生六〇〇人） 石谷小学校ナイター施設完成 交通死亡事故ゼロ二、五〇〇日達成 松元小屋内運動場完成 石谷小学校創立百周年記念式典 町老人福祉センター落成 日本消防協会表彰旗受賞 町総合振興基本計画樹立 町商工会館落成 仁田尾保育園開園（定員六〇人） 町制施行二十周年記念式典 町最高齢者篠原ヒロさん（二〇五歳）逝去 第一回かしまふるさとまつりで、松元茶手もみ技能披露 平野岡運動公園造成
		六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		二九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		三九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		四九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		五九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		六九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		七九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		八九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九一	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九二	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九三	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九四	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九五	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九六	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九七	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九八	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		九九	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
		一〇〇	松元小学校新校舎竣工（鉄筋三階建） 町社会福祉協議会が社会福祉法人となる。

一九八二	一九八三	一九八四	一九八五
五七	五八	五九	六〇
一七	一〇	四	三
日置地区体育大会を本町で開催	折尾地区簡易水道竣工	町最高齢者植木トヨさん（一〇四歳）逝去	石谷地区簡易水道全面改修
石谷小学校新校舎増築	春山小屋内運動場落成	町立学校給食センター移転新築	東昌小特別教室とアスレチック施設完成
平野に町中央公民館新築落成	県立松陽高等学校開校	東昌小学校屋内運動場落成	石谷に社会福祉法人・特別養護老人ホーム健生苑開園
新しい郷土芸能「松元太鼓」誕生	松元幼稚園平野に移転新築	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
松元ダム（直木高田）の調査はじまる	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
日置地区消防組合業務開始	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
折尾地区簡易水道竣工	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
春山小屋内運動場落成	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
県立松陽高等学校開校	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
松元幼稚園平野に移転新築	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
中央館西隣に婦人の家落成	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
町最高齢者植木トヨさん（一〇四歳）逝去	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
東昌小学校屋内運動場落成	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
町立学校給食センター移転新築	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
町長に九万田萬喜良氏無投票当選	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
石谷に社会福祉法人・特別養護老人ホーム健生苑開園	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
東昌小特別教室とアスレチック施設完成	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	
石谷地区簡易水道全面改修	中央館西隣に婦人の家落成	町長に九万田萬喜良氏無投票当選	

索引

- ア 噯……………250  
 阿多平四郎忠景  
 有馬誠之丞……………308
- イ 石谷右衛門三郎……………107  
 石谷熊野神社……………96, 106  
 石谷伊賀守梅吉……………163  
 石谷伊賀守梅久……………174, 175  
 石谷長門守忠栄……………174, 180  
 石原忠光……………132, 176  
 石原宇兵衛……………292, 302  
 伊作氏系図……………162  
 伊作久逸  
 市山城……………194  
 伊集院氏系図(1)……………109  
 伊集院氏系図(2)……………114  
 伊集院氏系図(3)……………178  
 伊集院忠朗……………178, 181, 182  
 伊集院刑部小輔久慶……………192  
 伊集院源次郎……………210, 218  
 今村七郎……………111  
 入佐……………88, 89, 115, 119, 184  
 入田門  
 入来院重朝  
 入来院弾正忠重聰……………170, 173, 178  
 院司……………90, 94
- ウ 上原能基……………128  
 上原基員……………128, 130, 133  
 上坊観音堂……………120, 125  
 上井覚謙……………198, 199, 256  
 右衛門兵衛尉  
 梅北国兼……………183
- 内田坊
- エ 圓通庵……………140  
 圓福寺……………96, 186  
 圓勝寺……………133, 146, 187  
 永福寺……………194, 273, 275  
 永作地……………239  
 英国式調練……………296
- オ 大隅五郎太郎久親……………103, 116  
 大隅五郎兵衛尉助久  
 大友宗麟……………195, 200  
 大前道友  
 大寺壹岐守資安  
 大田原墨  
 小倉庄五郎……………292, 306  
 小田原駿河守  
 小谷武右衛門……………292  
 岡町……………182
- カ 抱地……………232, 239  
 柿本大明神……………156  
 樺山資久  
 寛庭芳宥大姉  
 門名寄帳……………244  
 懐良親王……………95, 118, 147
- キ 紀氏系図……………91  
 肝付兼久……………151  
 紀元信……………95, 127  
 紀時綱……………95, 97, 100  
 紀清忠……………95, 96, 97  
 紀清元

- 紀時村……………97, 98, 100  
 紀時継……………96  
 紀宗継……………96  
 紀元忠……………127, 129  
 久徳名……………98, 148
- ク 桑羽田……………131, 132  
 桑波田宗景……………118, 135  
 桑波田孫六……………170, 174  
 桑波田源智……………95
- ケ 桂庵禪師  
 下司  
 建久 岡田帳……………90, 93, 94, 96
- サ 税所氏系図……………120  
 税所義祐……………120, 122, 128  
 坂木六郎……………234, 286  
 坂之上門……………139, 281  
 三條侍従泰季
- シ 島津氏正統系図(1)……………162  
 島津氏正統系図(2)……………163  
 島津・伊集院婚姻図……………138  
 島津諸三郎忠能  
 島津三郎兵衛実忠  
 島津忠久……………102  
 島津元久  
 島津久豊  
 島津忠国……………143  
 島津忠昌……………150, 150, 165  
 島津運久……………165  
 島津久逸……………163  
 島津忠良……………167  
 島津貴久……………165, 183
- 島津義弘……………183, 200, 201  
 諸国一同法……………193, 222  
 心伝中空君……………175, 176  
 深固院……………133  
 俊成法印
- セ せう阿弥陀仏……………122  
 雪窓妙安大姉
- タ 谷山五郎隆信……………138  
 田実右京亮……………193  
 たまりの蘭……………140  
 高岡郷……………224  
 平大監季基……………90  
 竹山壘……………179
- チ 智賀尾神社……………88, 89, 99  
 竹居正猷……………135, 136  
 知行名寄帳……………239  
 仲翁禪師……………135, 136
- ツ 黒葛原……………101  
 土橋勘解由左衛門  
 筒場……………310
- ト 時吉……………147  
 所三役……………228  
 鳥取政茂  
 鳥取政秀  
 得重五郎助道
- ナ 中村源右衛門……………257, 302, 309  
 中俣七郎祐秀  
 長崎城……………174  
 名子……………243

	南仲和尚……………133, 146		町田氏系図(4)……………259
ニ	新納武蔵守忠元……………198, 205		町田氏総系図……………260, 261, 262
	新納旅庵……………218, 221, 224		町田久興系図……………216
	西徳次郎……………305		町田新右衛門忠継……………192
ハ	羽黒権現		町田伊賀守久則……………215, 219, 221
	初鶴御前……………98, 105, 138		町田源左衛門久政……………215
	初犬千代丸	ミ	町田図書頭久幸……………202, 265
	橋口兼弘……………117, 178, 290		満家院……………89, 93
	原田……………117, 131, 132		南原門……………244
	番船破れ……………204		養原合戦
ヒ	比志島氏系図……………172		三原右衛門佐
	比志島栄尊……………99, 127		宮城家・佐渡原系図……………227
	比志島範平		名田……………93
	比志島国貞……………195, 208, 265		名主……………93
	彦山権現……………137		名頭……………243
	菱刈重廣	ム	妙円寺……………133
	肥後助西……………178		麦生田
	肥後盛家……………179		村田如巖
	平田増宗……………204, 216	モ	持留地……………239
フ	福島明神	ヤ	山田式部少輔
	ふくまん名		山田式部孫五郎宗久……………106, 110, 113
ホ	報恩寺……………191		山田式部聖栄……………164
	豊瑞丸……………301		山田式部昌巖……………219
	穂満神社……………189	ヨ	四元六兵衛……………256, 295
	本田石見房……………171		四元……………111
	本田下野守親貞……………197, 199		寄郡……………93, 110
マ	町田氏系図(1)……………141	ラ	頼盛法印
	町田氏系図(2)……………177		頼遍法印……………124
	町田氏系図(3)……………185		

執筆分担表

第一編 松元町の概観……………上野清香

第二編 先史時代……………川口貞徳

第三編 松元町の歴史……………有馬俊郎

第四編 現代

政治部門

第一章 政治・第二章 財政……………山下福吉  
吉田三仁

第四章 軍事……………上野清香

産業・経済部門

第一章 農業・第二章 商工業……………増田義男

第四章 林業……………新穂松次

交通・通信部門……………川越満徳

福祉・保健部門

第一章 社会福祉……………新穂松次

第二章 保健・衛生……………小原静雄

教育・宗教部門

第一章 学校教育……………吉田三仁

第二章 社会教育……………吉田三仁

第三章 教育行政……………吉田三仁

第四章 宗教……………岩城久賢

文化部門

第一章 文化財……………川越満徳

第二章 文化団体……………川越満徳

第三章 風俗

一、年中行事・三、人生儀礼……………増田義男

二、生活の変遷・四、子供の遊び……………上野清香

七、裡諺・俗信……………上野清香  
岩城久賢

五、講・六、伝説・民話……………岩城久賢

## あとがき

昭和三十八年九月発行の「松元町郷土史(第一輯)」が本町にある唯一の郷土史で、残部もなくなり、各分野にわたる郷土史をまとめたらという要望が教育委員分事務局の中から生まれました。具体的な計画もない俚に編集委員を委嘱して発足したのが実情でした。現代編としてまとめることとし、各委員で分担の分野を設定して資料の蒐集にかかりました。明治以降なら資料も容易に得られるのではないかという安易な考えは早速暗礁に乗り上げました。未経験も手伝って資料集めに先ず苦勞しました。それでも各委員各自に古老を訪ね、記念碑を探り、図書館に通い、町役場の倉庫を漁り、関係機関の協力を仰ぐなどして予想外に歳月を費やしましたが、何とか目的を達することができました。各自プリントした資料を持ち寄り検討を重ねること数十回、町田社会教育課長着任されて「いつまでも資料蒐集でもあるまい。いい加減に文章化の作業に入りなさい」の叱咤激励を受けてから、作業も本腰になりました。原稿も検討しては書き直して不本意ながら一応八月に執筆作業を終わりました。その間全般的な指導を有馬俊郎先生に仰ぎました。

最初現代編としてまとめる計画でしたが、切角の機会に歴史編も加えて発行しようという計画を変更し、先史時代を県考古学会長の川口貞徳先生に、歴史編を有馬俊郎先生に御相談申し上げたところ、御多忙中のところを快く御受けいただき、本誌の冒頭に光彩を添えていただいたことは望外の喜びでした。

足かけ十年の長い年月の間には、委員の中にもいろいろ故障が生じました。先ず若松秋吉委員が発足間もなく病に倒れ、続いて福田泰三委員、有馬純義委員長、増田義男委員と病を得、福田・増田両委員は不幸にも発刊を待たずに他界されました。加うるに小原静雄委員、山下福吉委員も健康すぐれず、医療のかたわら仕事に参加される状況で、一時はどうなることかと気をもむことでした。しかし、亡くなられた委員や故障の委員の方々の分は残りの委員で相補い合って、何とか脱稿の運びとなりました。更に全般的に御指導いただくと同時に歴史編を執筆いただいた有馬俊郎先生も脱稿直後の十一月、病に倒れ目下入院加療中であります。御全快の程一同祈っております。

ここに完成はしましたが、内容表現ともに不備不適なところが多いためですが、私たち委員一同は能力に応じて熱意をもって鋭意編集執筆に努力したつもりです。

「故きを温めて新しきを知る」手がかりにしていただけ  
るのではないかと思えます。本郷土誌が郷土への理解を  
深め、町勢発展の一助ともなれば望外の喜びとするこ  
ろであります。

最後に春山の故四元六二先生を始め、貴重な資料を提  
供いただいたり、直接指導助言を賜った数多くの方々に  
心から感謝の意を捧げたいと思えます。又長い間終始変  
わることなく面倒を見てくださった事務局の方々や財政  
措置に御配慮いただいた町当局に対し、お礼を申し上げます。

昭和六十一年三月

松元町郷土誌編集委員

若松秋吉、山下福吉、有馬純義

小原静雄、岩城久賢、川越満徳

吉田三仁、新穂松次、上野清香

(故)福田泰三 (故)増田義男

同事務局

社会教育課長 弓指義則

社会教育主事 南 三郎

松元町郷土誌

昭和六十一年三月一日 印刷

昭和六十一年三月三十一日 発行

編纂者 松元町郷土誌編さん委員会

発行者 松元町長 九万田 萬喜良

印刷所 有限会社 朝日印刷

鹿児島市上荒田町八五四―一







